

Teaching and Learning Management
FACTBOOK 2024



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

金沢大学
教学マネジメントセンター



金沢大学 教学マネジメント FACTBOOK 2024

目 次

I. はじめに

1. 巻頭言 . . . 3

II. 大学全体レベル

1. 教育の内部質保証に関する指針の策定 . . . 5
2. 金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) . . . 8
3. FD・SD 活動の枠組と実績 . . . 11
4. 学生生活実態調査, 卒業・修了後アンケート及び
就業先企業アンケートの結果概要 . . . 13
5. 教学 IR 環境の整備 . . . 36

III. 学位プログラムレベル

1. 大学院課程<グローバル>スタンダードの改訂 . . . 38
2. (研究科) 専攻長ヒアリング (対話型 FD) の実施 . . . 40
3. 卒業・修了者アンケートの結果概要 . . . 43
4. 「学びの計画書」を通じた DP 達成度可視化の整備 . . . 44

IV. 授業科目レベル

1. 授業評価アンケートの結果概要 . . . 46

V. 文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) に関する意識調査

1. 趣旨・回答概要・要点 . . . 51
2. 意識調査 (学生版) 結果概要 . . . 53
3. 意識調査 (教員版) 結果概要 . . . 57

VI. 参考資料 (『教学マネジメント指針』(中央教育審議会大学分科会) 別紙 2・3)

1. 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報について (別紙 2) . . . 63
2. 情報公表について (別紙 3) . . . 67

I. はじめに

巻頭言

金沢大学では、令和 3 年 4 月に教学マネジメントセンターを創設しました。令和 2 年 1 月に公表された『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会）に沿って、大学全体レベル・学位プログラムレベル・授業科目レベルの各レベルにおける教学マネジメントを強化すべく、教育担当理事のもとに新しい組織を設置し、その取組を進めています。特に、同指針では、教学マネジメントを支える基盤として「FD・SD の高度化と教学 IR 体制の確立」を求めていることに着目し、エビデンスに基づく教育マネジメントを進める観点から、教育・学修に関するデータの収集・分析・共有に関し、今まで以上に力を注いでいく必要があります。

そこで、教学マネジメントセンターでは、令和 4 年度国立大学経営改革促進事業における大学院改革プロジェクトの採択を受け、『教学マネジメント FACTBOOK2022』を新たに刊行し、金沢大学の教育と学修に関する基本データを整理・共有する取組に着手しました。教学マネジメント FACTBOOK について、令和 5 年度以降、毎年度、定期的に刊行することとし、この度、『教学マネジメント FACTBOOK2024』をとりまとめました。

これまでの金沢大学の教育改革は、平成 20 年度の学域・学類制の導入に始まり、平成 28 年度の国際基幹教育院の設置、平成 30 年度の国際基幹教育院総合教育部の設置を通じたレイトスペシャライゼーションの導入、令和 3 年度入学者選抜から全学類での後期日程廃止といった一貫した教育改革を通して、学修者本位の教育を理念とし、伝統的なディシプリンを超えた柔軟性ある教育プログラム提供と、学生が自主的に進路選択できる機会提供を図ってきました。さらに、令和 2 年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」では、第 4 の学域である「融合学域」の設置と全学域学生を対象とした「先導 STEAM 人材育成プログラム」の開設を通じた、文理融合・STEAM 教育の推進によるイノベーション人材育成に邁進してきました。

高等教育機関として、どのような場面にあっても、教育成果と学修成果を把握・確認しながら、さらなる向上を図っていくことが求められています。『教学マネジメント FACTBOOK 2024』の刊行を契機に、今後とも、教学マネジメントの取組に、ご理解とご支援を賜れば幸いです。

令和 7 年 3 月

金沢大学 教学マネジメントセンター

Ⅱ. 大学全体レベル

II 大学全体レベル

金沢大学では、大学全体レベルの教育・学修目標として、平成26年度に採択された「文部科学省・スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）」の取組において、金沢大学〈グローバル〉スタンダードを策定し、人材育成の中心に据えていることが特徴である。

1. 教育の内部質保証に関する指針の策定

本学は、『金沢大学憲章』において「専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成すること」を掲げ、平成28年度には、世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成のための本学独自の教育方針である「金沢大学〈グローバル〉スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard ; KUGS）」を策定した。この大学全体レベルの教育方針に則り、全学類において「3つのポリシー」を通じた教育・学修目標の具体化を行っている。

令和3年4月に設置された教学マネジメントセンターでは、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会）が示す「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」の各レベルに応じた教学マネジメントを徹底するため、学修成果や教育成果を定量的または定性的なエビデンスに基づき評価することを目的に、下表のようなアセスメントプランに関する枠組を提示してきた。

図表 II-1 金沢大学におけるアセスメントプラン概要一覧

項目 レベル	教育・学修目標	改善充実のための機会 (FD・SD)	アセスメントツール (教学IR)
大学全体レベル (マクロ)	金沢大学 〈グローバル〉スタンダード (KUGS)	全学FD 新任教員説明会	学生生活実態調査 卒業・修了後アンケート
学位プログラムレベル (ミドル)	(各学類、専攻で定めた) ディプロマ・ポリシー (DP)	全学FD 学域・学類、研究科FD	卒業・修了者アンケート DP達成度自己評価
授業科目レベル (ミクロ)	(シラバスに明記された) 学修目標	全学FD 学域・学類、研究科FD 新任教員説明会 CLA研修	授業評価アンケート 成績評価分布

その後、令和6年2月には、アセスメントプランに当たる「教育の内部質保証に関する指針」（次ページ参照）を新たに策定し、学位プログラムを中心としたモニタリング・レビューの仕組みを明文化した。具体的には、「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」の各レベルに応じた日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）の方法を規定し、各学位プログラムの責任者は、毎年度1回の日常的な点検（モニタリング）及び7年に1回の総合的な点検・評価（レビュー）の結果について、教育担当理事・副学長に報告すること、さらには、教育の内部質保証の推進責任者である教育担当理事・副学長は、教

育企画会議の議を経て、内部質保証の統括責任者（学長）に報告することを明記した。そして、日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）において参照すべき各種調査データ提供及び分析等について、各学位プログラムの責任者からの依頼の下、教学マネジメントセンターが支援することとした。

今後は、同指針に沿って、大学全体・学位プログラム・授業科目レベルの教学マネジメントを徹底し、教育の内部質保証の向上に努める。

（参考）

金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

（令和6年2月9日 令和5年度第12回教育企画会議決定）

1. 趣旨

本指針は、大学設置基準第1条第3項の規定に基づき、金沢大学が教育の状況を点検及び評価し、自ら改善及び改革を行う内部質保証を有効に機能させるために定める。

2. 目的

大学設置基準第2条の2及び第19条第1項並びに学校教育法施行規則第165条の2の規定に基づき、「入学者の受入れに関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「卒業又は修了の認定に関する方針」（以下、「三つの方針」という。）に沿った教育の内部質保証体制を整え、教育課程の編成等や自己点検・評価、認証評価の結果を踏まえた不断の見直しを行うとともに、教育の実質化等による質向上を図る。

3. 方法

教育の内部質保証については、「教学マネジメント指針」（中央教育審議会大学分科会（令和2年1月22日））に沿って、「大学全体レベル」「学位プログラムレベル」「授業科目レベル」の3つのレベルに分けて捉える。

大学全体レベルについては、教育企画会議及びその下に設置された専門委員会が、教学マネジメントセンターの支援を受け、日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う。

学位プログラムレベルについては、三つの方針に則しつつ、あらかじめ定めた方法により、日常的な点検（モニタリング）を行うとともに、定期的に、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといった点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行うなど総合的な点検・評価（レビュー）を行うこととし、具体的な方法は次のとおりとする。なお、授業科目レベルについては、学位プログラムレベルに含め、日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う。

(1) 学位プログラムの日常的な点検（モニタリング）として、各学位プログラムの責任者は、毎年度、当該学位プログラムの教育成果・学修成果に関する指標に基づき、日常的な点検を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。なお、本学においては、FD

活動報告書を以て充てる。

- (2) 学位プログラムの総合的な点検・評価（レビュー）として、各学位プログラムの責任者は、原則として7年に1回、毎年度点検（モニタリング）する教育成果・学修成果等について、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといった点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。
- (3) 毎年度1回の日常的な点検（モニタリング）及び7年に1回の総合的な点検・評価（レビュー）の結果について、教育の内部質保証の推進責任者である教育担当理事・副学長は、教育企画会議の議を経て、内部質保証の統括責任者（学長）に報告する。報告を受けた内部質保証の統括責任者は、必要に応じて推進責任者に改善を指示し、推進責任者は教育企画会議に改善方針等を示し、改善活動を行う。

4. 教育成果・学修成果に関する各種調査データ

日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）において参照すべき各種調査データは、次のとおりとする。

- (1) 日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う際には、表に掲げる各種調査データを参照しながら、点検・評価を行わなければならない。
- (2) 表に掲げる各種調査データのほか、必要に応じ、在学者、卒業・修了者、企業等から大学全体及び学位プログラム等に関する意見聴取を行い、点検・評価に資することが推奨される。
- (3) (1)及び(2)に関する各種調査データの提供及び分析等について、各学位プログラムの責任者からの依頼の下、教学マネジメントセンターが支援する。

5. 雑則

本指針に定めるもののほか、教育の内部質保証に関し必要な事項は、別に定める。

表 教育成果・学修成果に関する各種調査データ一覧

調査名	指標	頻度	教学マネジメントレベル
新入生アンケート	志望理由、大学における学修に対する期待、入学者選抜に対する意見、希望進路、アドミッション・ポリシー、入試広報活動、入学後の学修・学生生活	毎年度(入学時)	大学全体レベル 学位プログラムレベル
授業評価アンケート	授業内容の適切性、担当教員の説明の仕方、授業外学修時間、授業理解度、学修目標達成度、授業満足度	毎年度（毎クォーターまたはセメスター）	授業科目レベル 学位プログラムレベル

学生生活実態調査	金沢大学<グローバル>スタンダードの修得度, 住居・通学手段, 経済状況, 学修時間, 学修環境・学生支援満足度, 課外活動・福利厚生施設への要望, その他要望事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了者アンケート	ディプロマ・ポリシー達成度, 学修及び学生生活の満足度, その他必要な事項	毎年度	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了後アンケート	在学中に身につけるべき能力の就職後の活用度, 職業満足度, 年収, その他必要な事項	毎年度 (原則として, 卒業・修了後3年の者を対象)	大学全体レベル 学位プログラムレベル
就業先アンケート	在学中に身に付けるべき能力の実装度及び期待度, 就職活動に対する対応度, その他必要な事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル

2. 金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組み、北陸さらには東アジアにおける「知の拠点」として、グローバル化の進む世界に向けて情報を発信することとし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定している。

この金沢大学憲章では、教育について次の2点を謳っている。

- 金沢大学は、各種教育機関との接続、社会人のリカレント教育、海外からの留学、生涯学習等に配慮して、多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、学部とそれに接続する大学院において、明確な目標をもった実質的な教育を実施する。
- 金沢大学は、学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する。

こうした本学の理念・目標の実現へ向けての大きな改革の一つとして、平成18(2006)年度に従来の教養教育を、導入教育や基盤教育などの幅広い教育内容を含む「共通教育」ということばに切り替え、教養的科目から「共通教育科目」に名称変更した。

平成28(2016)年4月から始まった第3期中期目標には、「主体性を涵養する教育により、学士課程においては、専門分野における確かな基礎学力と総合的視野を身に付け、国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成するとともに、大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する。」と明記した。この目標を実現す

るために、国際基幹教育院を創設し、世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成のための本学独自の教育方針である「金沢大学<グローバル>スタンダード (Kanazawa University “Global” Standard ; 以下「KUGS」という。)」を制定した。

学士課程<グローバル>スタンダードは次の6項目で構成している。

1. 自己の立ち位置を知る：

鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力
2. 自己を知り、自己を鍛える：

自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力
3. 考え・価値観を表現する：

論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力
4. 世界とつながる：

他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力
5. 未来の課題に取り組む：

科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から、地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力
6. 新しい社会を生きる：

Society 5.0 において幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え、多様な他者との協働により未知の社会的課題を解決に導くための能力

本学は、この KUGS を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目である Global Standard 科目 (GS 科目) および Global Standard 言語科目 (GS 言語科目) を中心とする体系的なカリキュラムを実施している。



図表 II-2 金沢大学<グローバル>スタンダード (学士課程版) と GS 科目一覧

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) については、上記の学士課程版に加え、大学院課程版が定められているが、近年の大学院教育のあり方が大きく変容する中で、令和6年7月に大学院課程<グローバル>スタンダードを以下のとおり改訂した。また、令和4年度からは、大学院学生のトランスファラブルスキルの修得等を目的として、大学院GS基盤科目及び大学院GS発展科目を全研究科の大学院学生対象に提供している。

学士課程<グローバル>スタンダードを高度先鋭化したものとして本学大学院課程<グローバル>スタンダードを定める。すなわち、本学大学院は、学士課程<グローバル>スタンダードにおいて謳われている、6つの能力・体力・人間力を大学院カリキュラムの学修を通してさらに高度先鋭化させ、以下の4つのスタンダードをもって、人類の未来を切り拓く使命に果敢に挑戦する高度専門人材を育成する。

1. グローバルマインドと明確な倫理的思考：
人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力
2. 交渉力・統率力・実践力：
解決困難な課題に粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を打開する能力
3. 多様な「知」を融合し、新たな価値を創出する総合知：
高度な専門性をもって多様な分野を統合し社会を先導できる能力
4. トランスファラブルスキル：
生涯を通じて、高度な社会課題に関する問題発見・問題解決の場面に適用できるトランスファラブルな能力



図表Ⅱ-3 大学院GS基盤科目及び大学院GS発展科目の概要図

3. FD・SD 活動の枠組と実績

令和 3 年 4 月に、教学マネジメントセンターが設置されたことに伴い、教育担当理事及び学長補佐（教育改革・学修支援担当）の指示のもと、全学的視点に立った FD・SD 活動を行いながら、部局 FD との協働・連携・支援を行っていく必要がある。このため、「全学 FD・SD」と「部局 FD」の関係性について事項整理しながら、「全学 FD・SD」で担うべきこと、「部局 FD」で担うべきことを明確化することとした。

【「全学 FD・SD」の役割と基本メニュー】

①「全学 FD・SD」の役割

- ◆大学の理念や基本方針の理解と共有
- ◆教職員として知っておくべき事項、遵守すべき事項の理解と共有
- ◆各年度における教学関連の全学的課題の理解と共有
- ◆教職協働，教職学協働のための場づくり

②「全学 FD・SD」の年間メニュー（基本セット）

図表 II-4 全学 FD・SD の年間メニュー（基本セット）

時期	内容
4月	新任教員説明会
4月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）研修会，高度TA研修会
9月	全学FD研修会
10月	FD活動報告書成果発表会
12月	教学マネジメントセミナー（全学FD・SD）
2月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）実施報告会
2月または3月	教員向け英語研修会
3月	全学FD研修会（当該年度成果報告会）

【「部局 FD」の役割と基本メニュー】

①「部局 FD」の役割

- ◆各部局における主要事項の理解と共有
- ◆各部局における各年度での諸課題の理解と共有
- ◆各部局における授業・カリキュラム，学修状況・成果の把握・検証
- ◆各部局における全学的課題の理解と共有

②「部局 FD」の基本メニュー

各部局に応じた組織単位での実施を尊重しつつ、部局主催での FD 活動について、以下の二つの区分に整理した。

ア) 個別テーマ型 FD・・・各部局における主要事項の理解と共有，各部局における各年度での諸課題の理解と共有を目的として，当該部局が独自のテーマ設定により実施する FD

イ) 統一テーマ型 FD・・・全学的課題の理解と共有などを目的として、教学マネジメントセンター等が連携・支援しながら実施する FD

(授業評価アンケートや卒業・修了者アンケート等の結果報告、機関別認証評価で求められる学位プログラム単位の DP・CP, カリキュラム・マップ, カリキュラム・ツリーに関する点検・見直しなど)

令和 6 年度全体の FD・SD 実績は下表のとおりである。FD 委員会及び教学マネジメントセンターが企画実施する定例的な全学 FD 研修会に加え、先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) の周知を主な目的とした、教職学協働型の KU-STEAM ランチョンセミナーを昨年度に続き企画実施した。また、高大接続コア・センターと共同主催した「探究・STEAM フェスタ」についても昨年度に続き企画実施し、高校生・高校教員と大学生・大学院学生・大学教員が集う対話の場づくりを設けることができた。

また、教学マネジメントセンターでは、時機に応じたテーマを話題に、短い時間で気軽に参加・意見交換できることをコンセプトとした新たな FD・SD イベントとして、「FD・SD ラウンジ」を 2 回企画開催し、いずれも好評であった。この新企画は、近年、高等教育を取り巻く環境の変化は目まぐるしく、高等教育機関としてカバーしなければならないテーマや領域が多様化し広がっていることから、新しく対応すべきテーマを中心に、最新の情報や今後の方向性を情報収集・意見交換することを狙いとしたものである。

本学では、各種セミナー・シンポジウム等を「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画として学外に広く公開するとともに、録画データ及び配布資料を学内ポータルサイトに公開・配信している。

図表 II-5 令和 6 年度 FD・SD 実績の概要

内 容	開催月日	参加者数
新任教員説明会	4月4日(火) 午前の部 4月4日(火) 午後の部	64名 101名
KU-STEAMランチョンセミナー	4月下旬～11月上旬 計8回開催	325名
全学FD研修会 「文理融合・STEAM教育に関連した授業設計とは ～教養教育、専門教育など多様な観点から考える～」	7月4日(木)	101名 (学外公開)
知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP) 採択校9大学合同企画 「未来志向型ワークショップ2024 (アイデアソン) ～『知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)』が創造する大学教育の未来～」	8月28日(水)	85名
第1回FD・SDラウンジ 「国立大学における探究型入試の今後の方向性」	9月9日(月)	21名
全学FD研修会及びKU-DPアドバイザーボード 「イシューベースラーニングのすすめ ～課題解決力や実践力を養えるための授業設計～」	9月27日(金)	56名 (学外公開)
全学FD研修会 FD活動報告成果発表会	11月1日(金)	43名
第2回FD・SDラウンジ 「DX・IRに関する取組紹介と今後の可能性 ～身近なソフトウェア活用からMicrosoft 365や生成AIの活用事例まで～」	11月29日(金)	51名 (学外公開)
知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP) 共通テーマ3参加校合同主催 教学マネジメントセミナー2024 「分野横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える ～文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援～」	12月9日(月)	170名 (学外公開)
高大接続ラウンドテーブル特別企画 「探究・STEAMフェスタ2024 ～高校生の探究心に火を灯す～」	12月15日(日)	104名 (学外公開)
知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP) 採択校9大学合同主催 総括シンポジウム 「新しい時代の大学教育につなぐメッセージ ～DP事業が目指し、創り上げてきた成果～」	3月6日(木)	192名 (学外公開)

4. 学生生活実態調査、卒業・修了後アンケート及び就業先企業アンケートの結果概要

4.1 学生生活実態調査を活用した「金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)」 達成度測定の定期的実施

学生生活実態調査は、学士課程学生対象の学生調査であり、「大学全体」レベルのアセスメントツールとして活用できる学生調査である。従来、2年に一回の頻度で実施していたが、令和6年度から毎年度実施することとなった。本学では、大学全体レベルの教育・学修目標として「金沢大学<グローバル>スタンダード」が策定されているが、その達成度について把握・可視化することが不十分であった。そこで、令和5年度実施の学生生活実態調査から、「金沢大学<グローバル>スタンダード」に掲げる教育・学修目標の達成度を把握・可視化に活用することとした。具体的には、学生生活実態調査において、KUGS6項目に掲げるコンピテンシー（能力）の達成度を自己評価する設問を以下のとおり追加した。

令和6年度実施結果に基づき、スタンダードごとの達成度について、各学域の年次による自己評価の推移を比較する（なお、医薬保健学域では1年次～4年次を対象とする）。

<金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)の達成度>

問7.「金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)」に掲げる、次の資質や能力について、あなたはどの程度身につけていると思いますか。それぞれのことがらについて、もっともあてはまるものを一つお選びください。

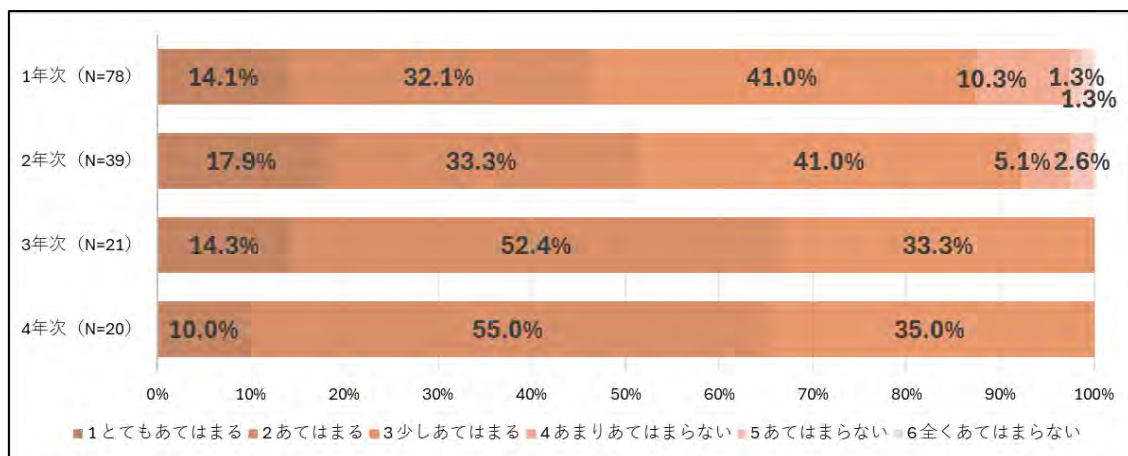
スタンダード1. 自己の立ち位置を知る:

鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力

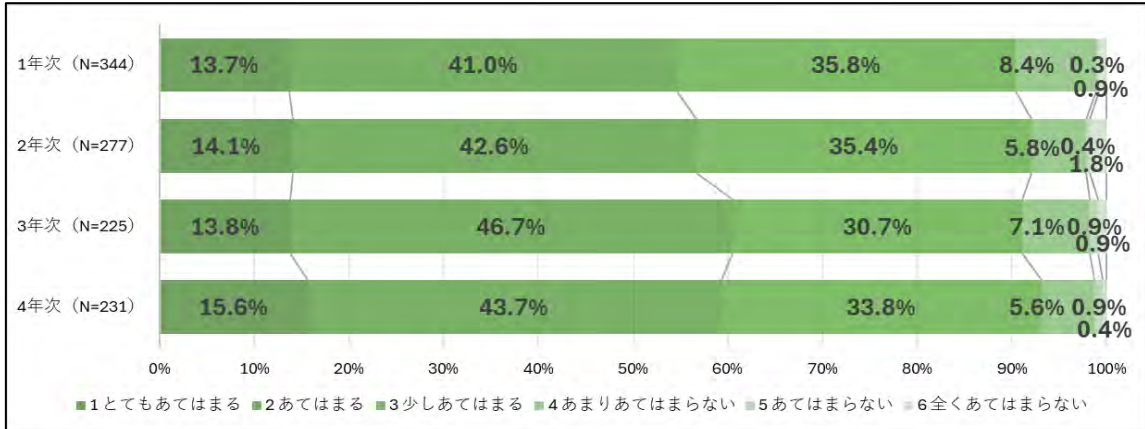
問7-1 あなたは、自分が置かれている状況をできるだけ正確にとらえることによって、自分が何をすべきかを自ら把握することができる。

1. とてもあてはまる
2. あてはまる
3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない
5. あてはまらない
6. 全くあてはまらない

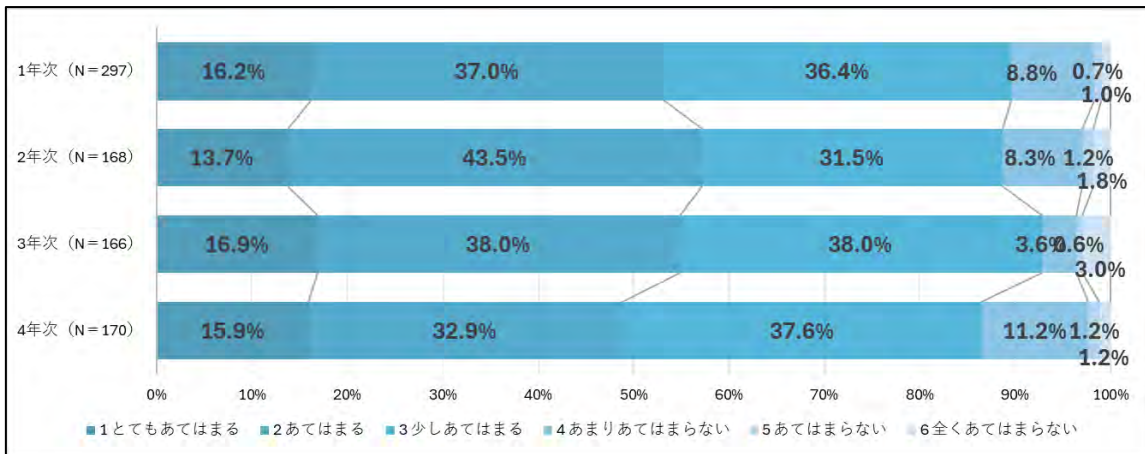
【融合学域】



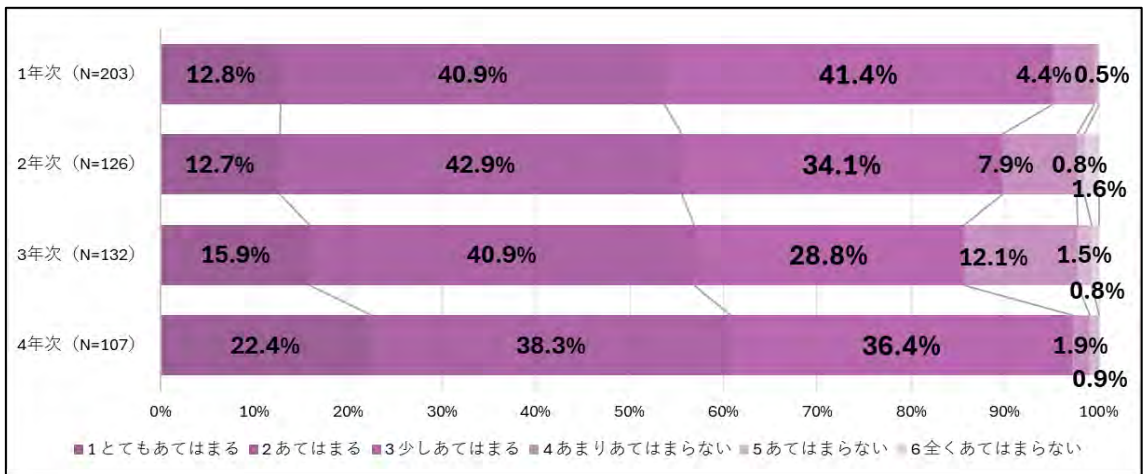
【人間社会学域】



【理工学域】



【医薬保健学域】



➡ 医薬保健学域において、高年次になるほど、自己評価が高くなる傾向にある。

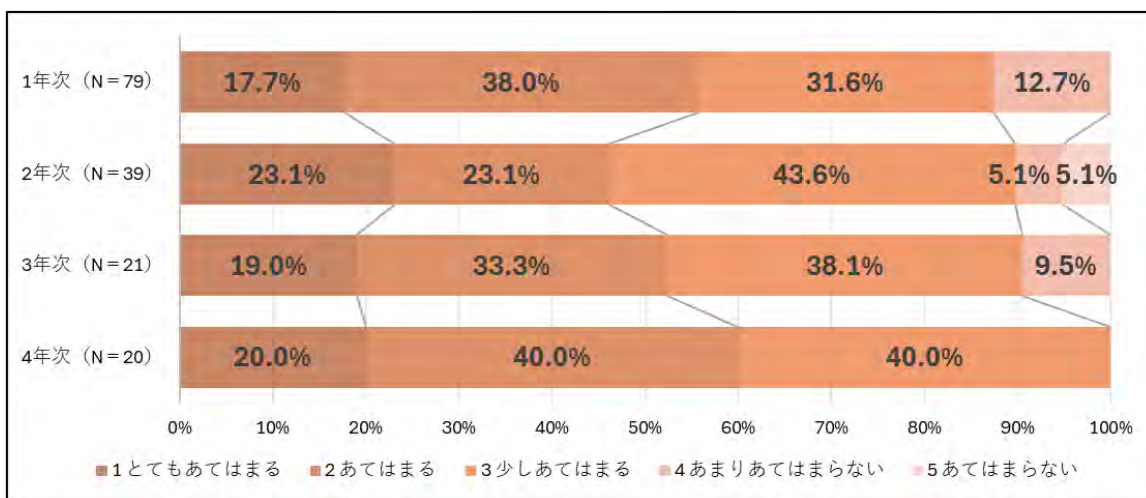
スタンダード 2 . 自己を知り, 自己を鍛える:

自己を知り, その限界に挑戦し, 知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力

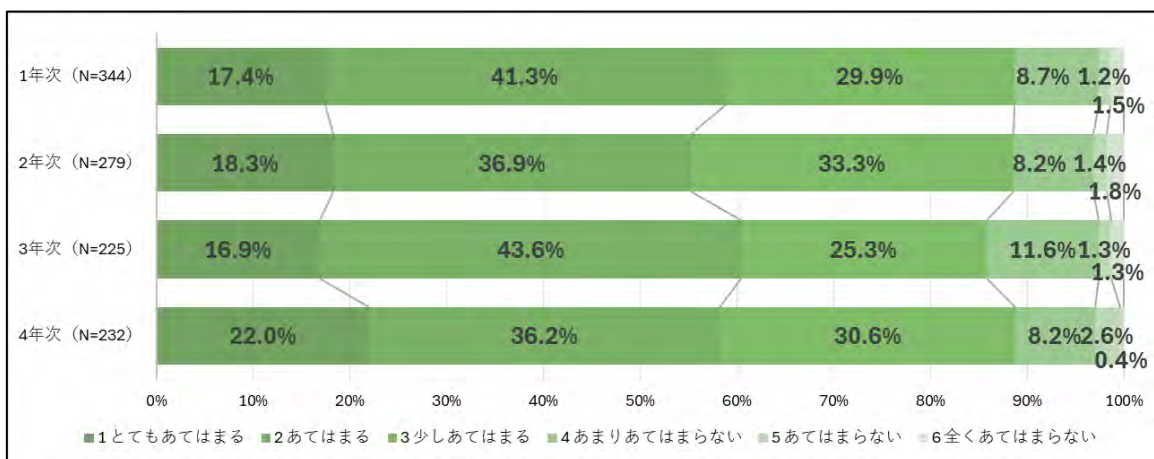
問 7-2 あなたは, 心と身体の両面において, 自己のアイデンティティを認識することができる。

1. とてもあてはまる 2. あてはまる 3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない 6. 全くあてはまらない

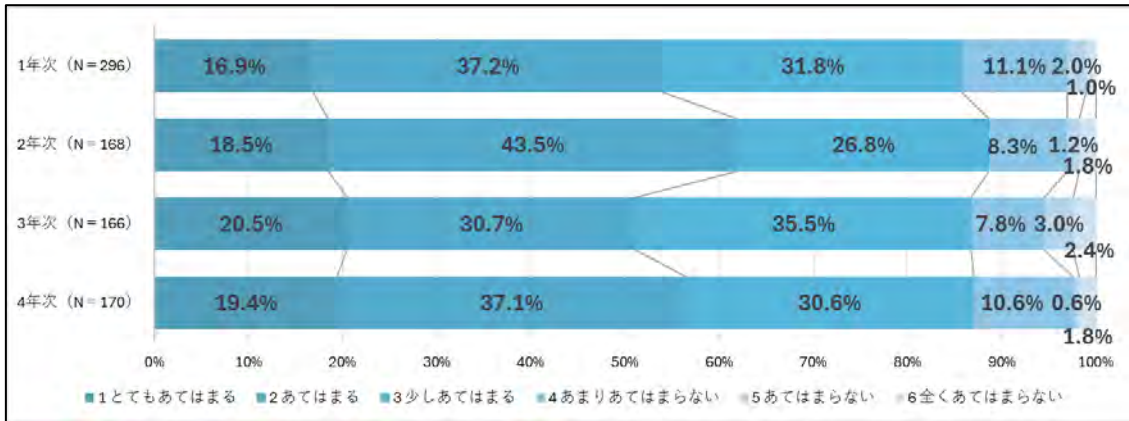
【融合学域】



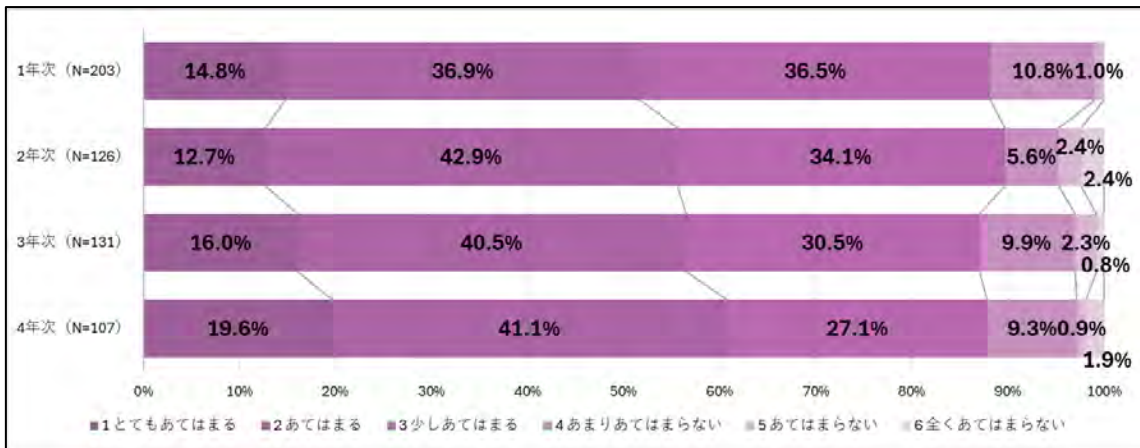
【人間社会学域】



【理工学域】



【医薬保健学域】



➡融合学域において、高年次になるほど、自己評価が高くなる傾向にある。

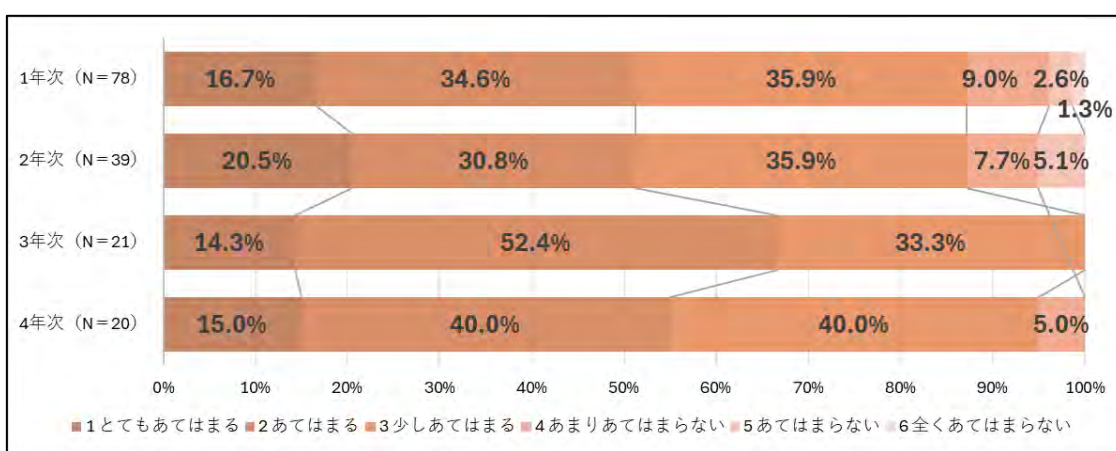
スタンダード 3 . 考え・価値観を表現する:

論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力

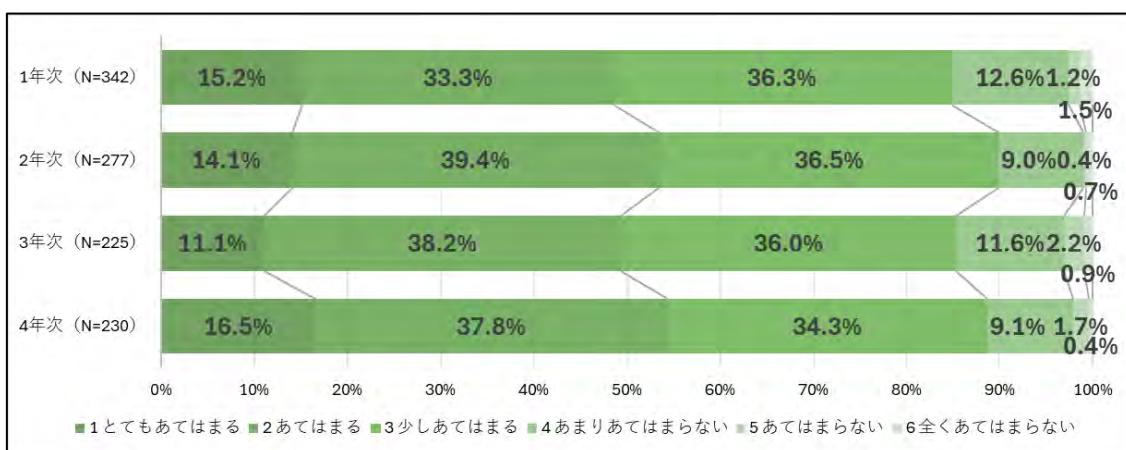
問 7-3-1 言葉や図表によって思考やアイデアなどの自分の考えを明確に表現することができる。

1. とてもあてはまる 2. あてはまる 3. 少しあてはまる
 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない 6. 全くあてはまらない

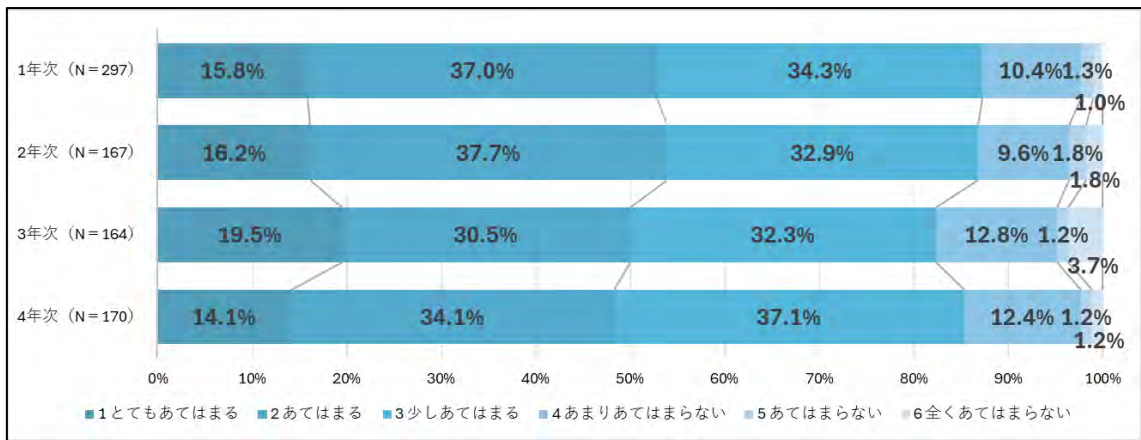
【融合学域】



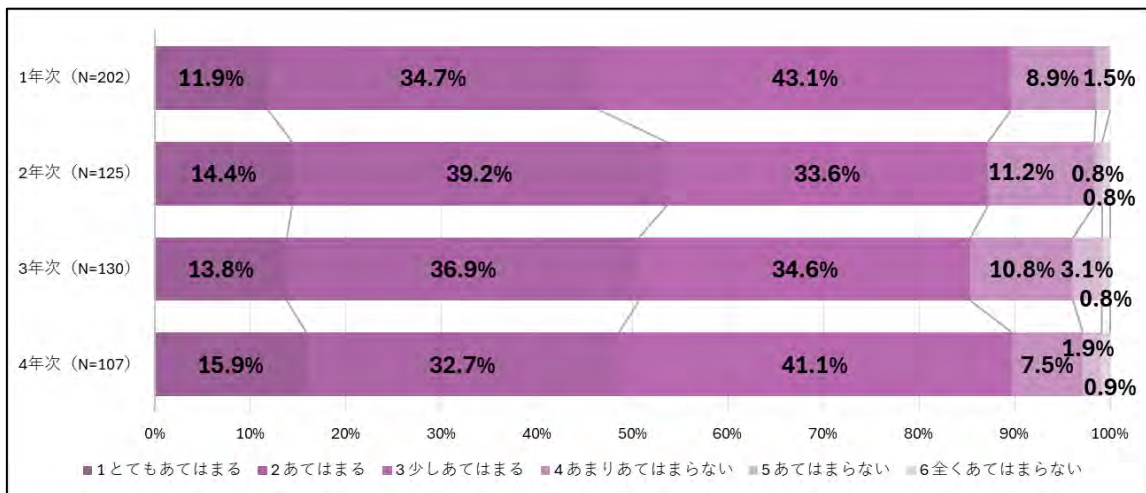
【人間社会学域】



【理工学域】



【医薬保健学域】

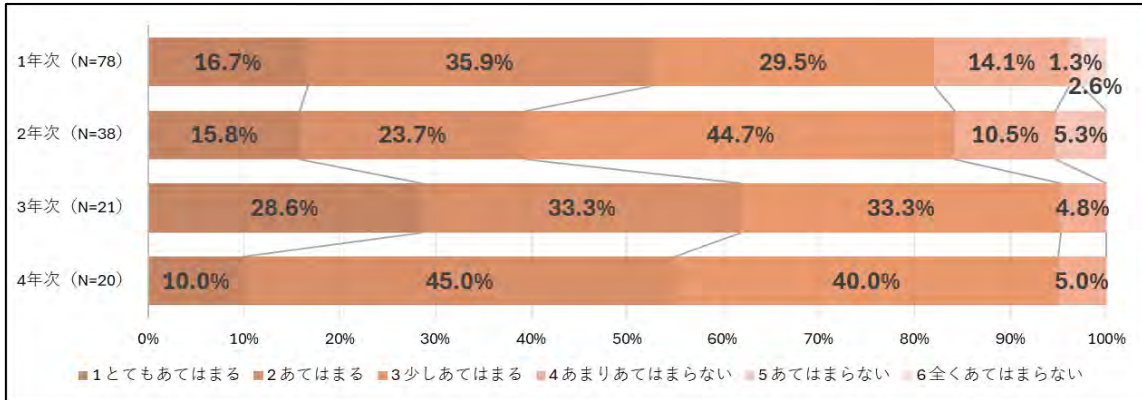


➡医薬保健学域において、高年次になるほど、自己評価が高くなる傾向にある。

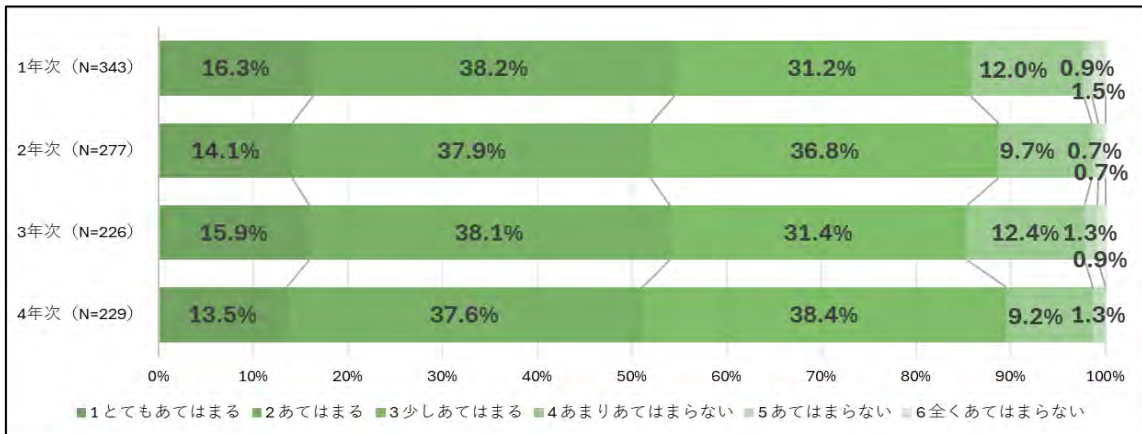
問 7-3-2 思考や表現行為の背後にある自分の感性や感情、価値観、ものの見方などを他者に的確に伝えることができる。

1. とてもあてはまる 2. あてはまる 3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない 6. 全くあてはまらない

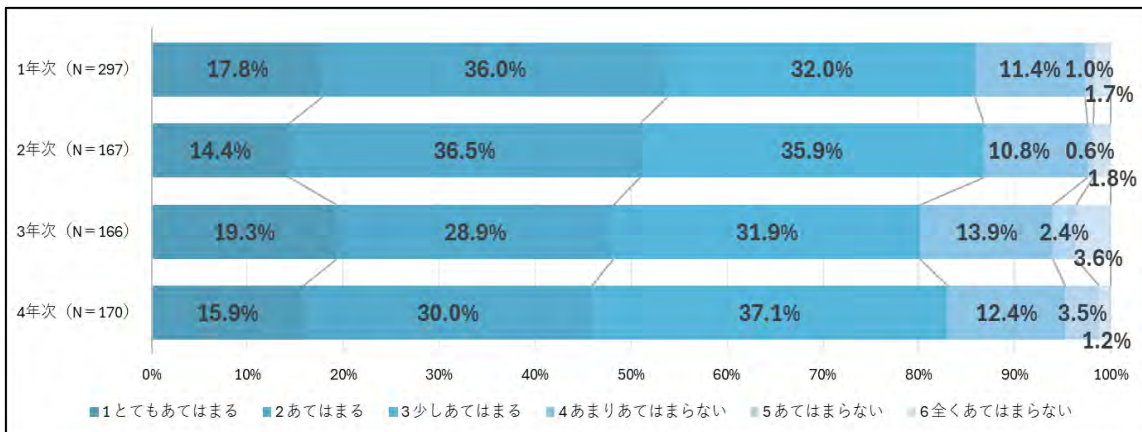
【融合学域】



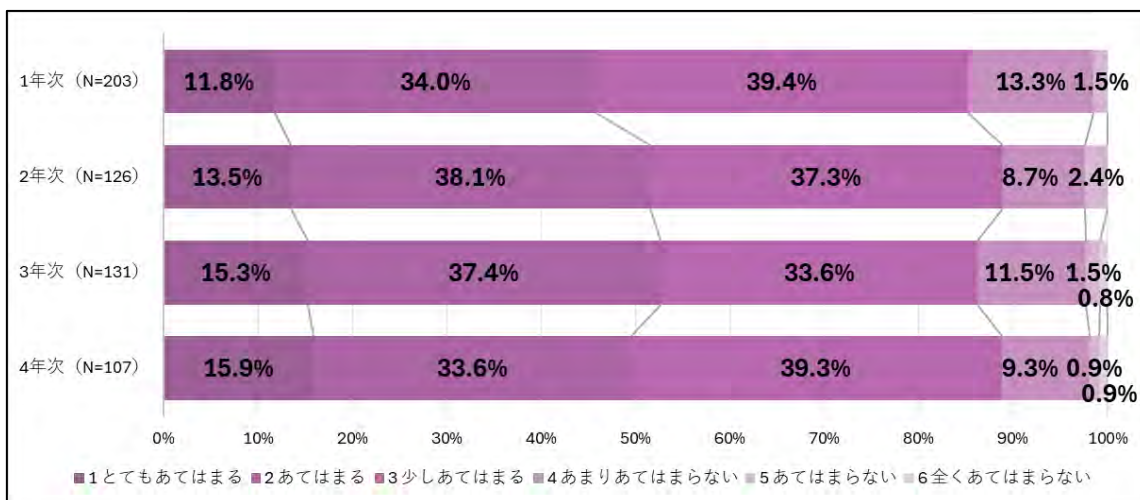
【人間社会学域】



【理工学域】



【医薬保健学域】



➡融合学域において、3年次学生の自己評価が顕著に高くなっている。

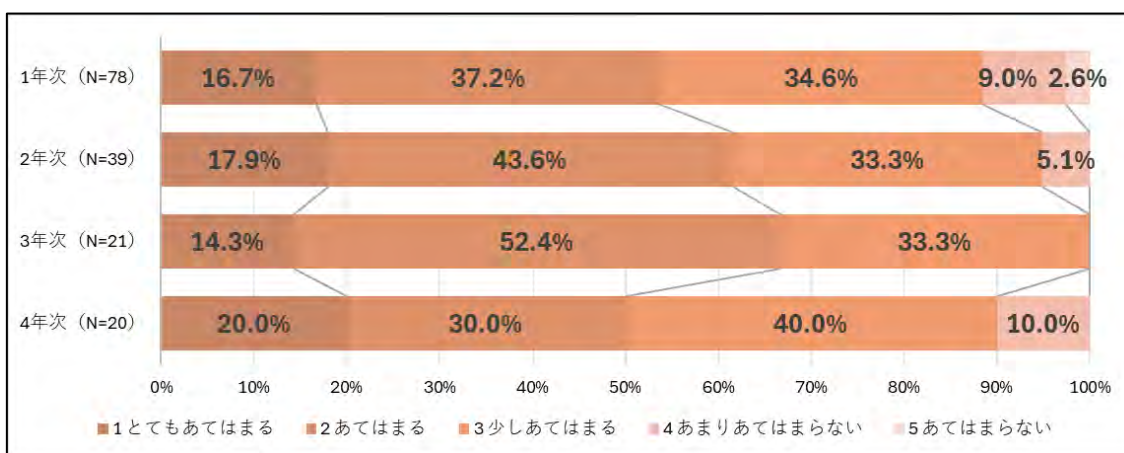
スタンダード4 . 世界とつながる:

他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力

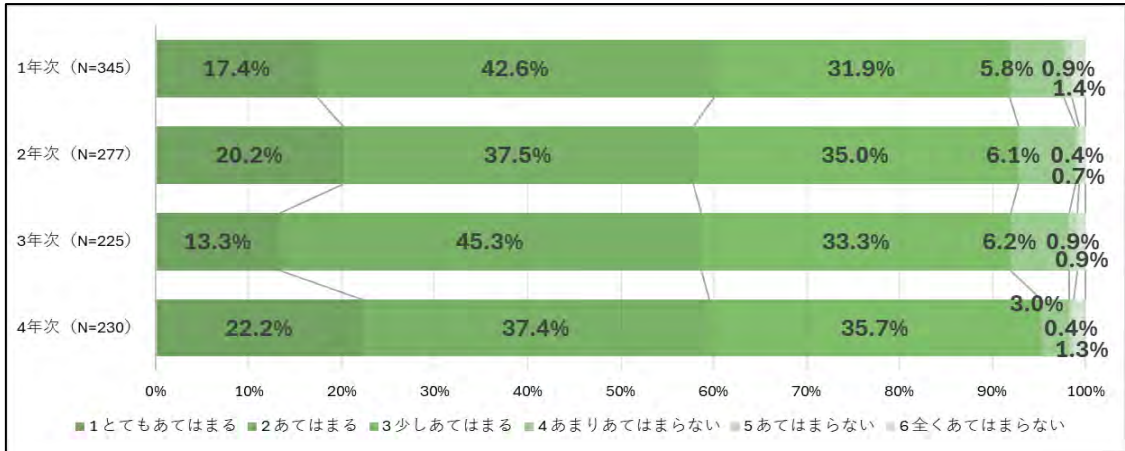
問 7-4 歴史的にも文化的にも自分とは異なる他者と共存・共生することができる。

1. とてもあてはまる
2. あてはまる
3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない
5. あてはまらない
6. 全くあてはまらない

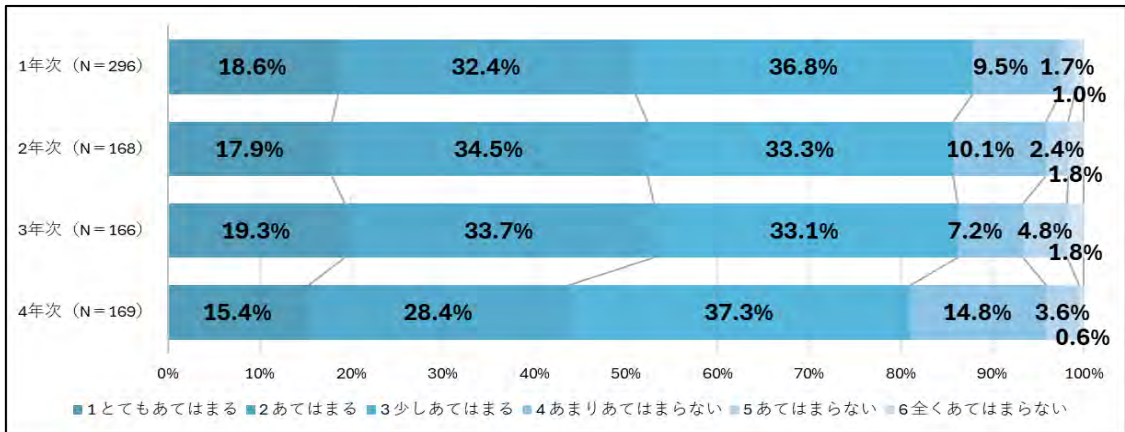
【融合学域】



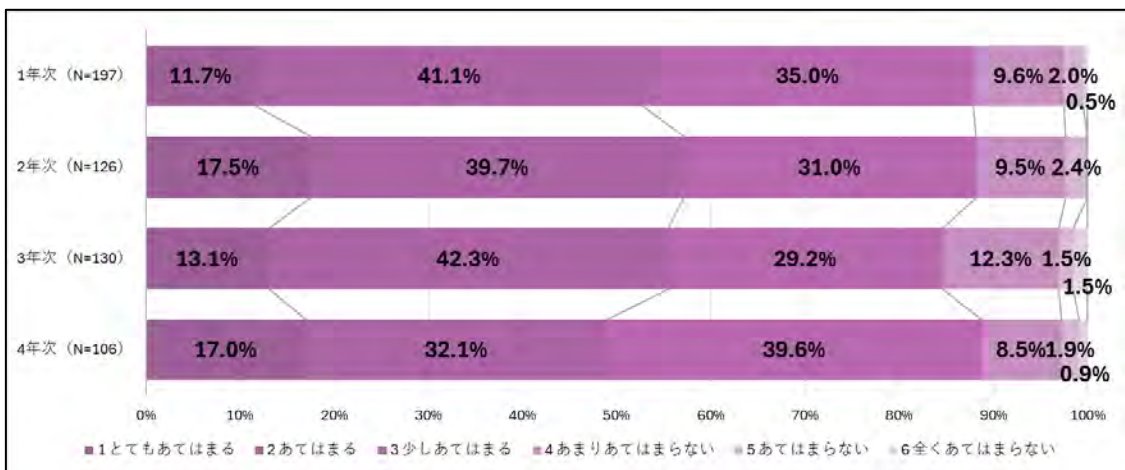
【人間社会学域】



【理工学域】



【医薬保健学域】



➡人間社会学域において、高年次になるほど、自己評価が高くなる傾向にある。

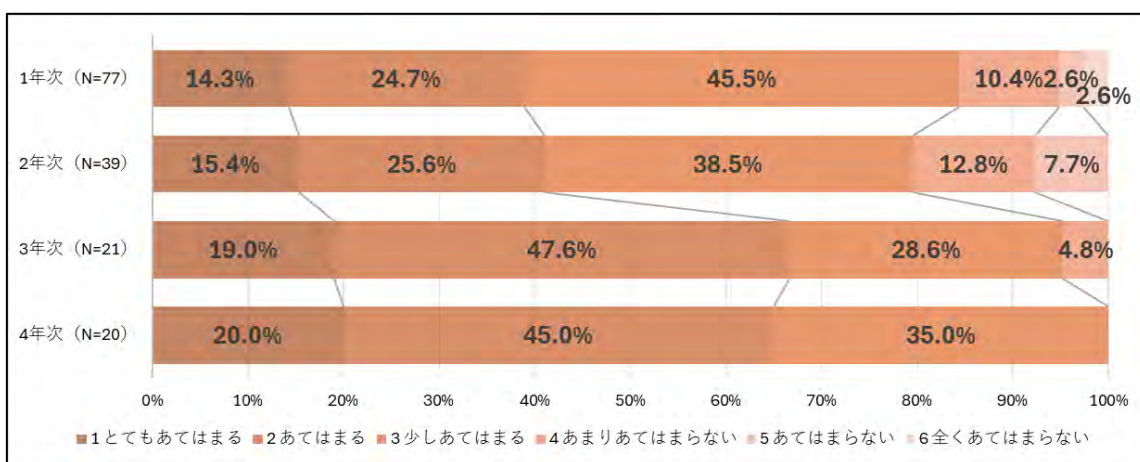
スタンダード5 . 未来の課題に取り組む:

科学技術の動向, 自然環境変動, 持続可能性などの多角的視座から, 地球と人類, 国際社会と日本の未来を総合的に予測し, 未来の課題に取り組んでいく能力

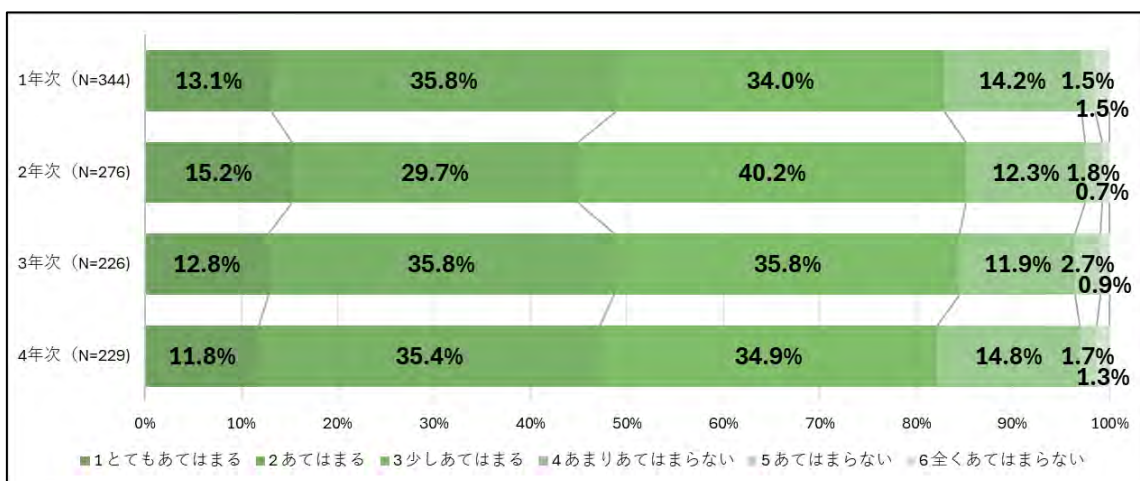
問 7-5 現在から未来にいたる状況認識に基づいて, 未来の課題に積極的に取り組んでいくことができる。

1. とてもあてはまる
2. あてはまる
3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない
5. あてはまらない
6. 全くあてはまらない

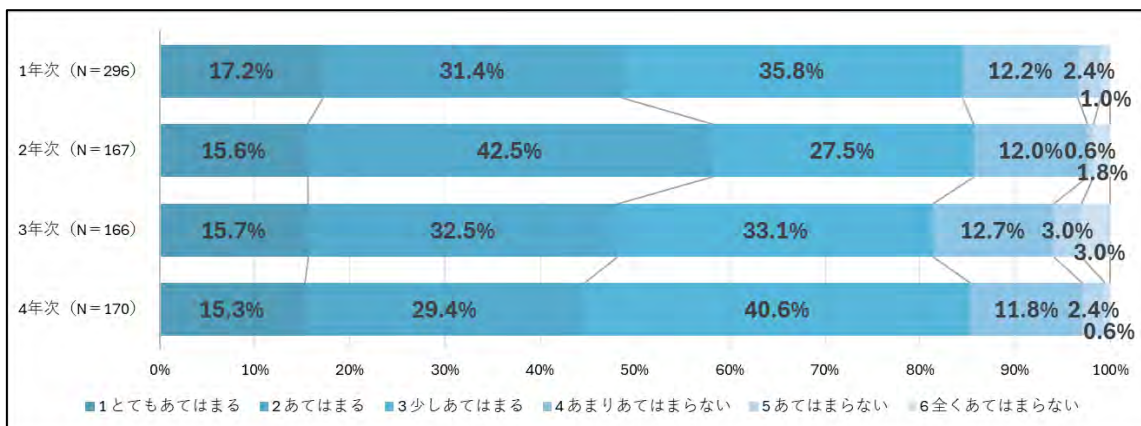
【融合学域】



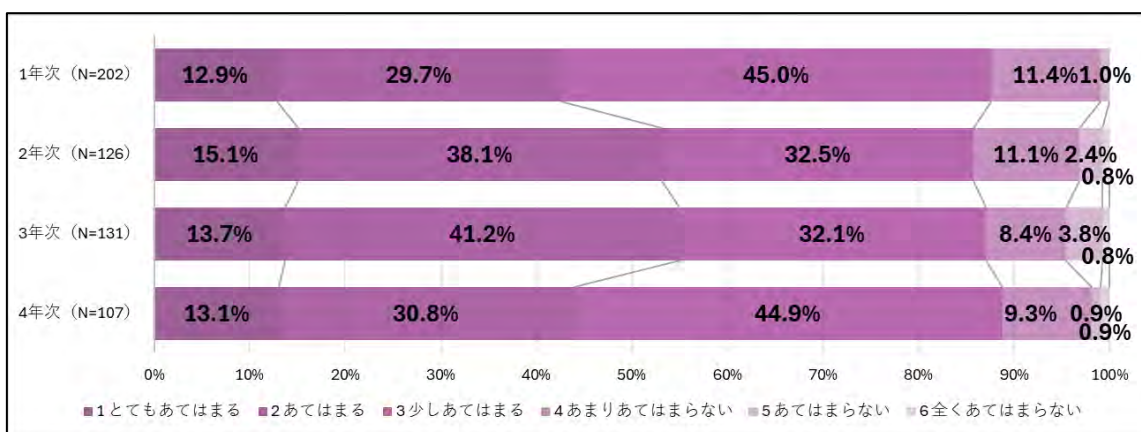
【人間社会学域】



【理工学域】



【医薬保健学域】



➡融合学域において、高年次になるほど、自己評価が高くなる傾向にある。

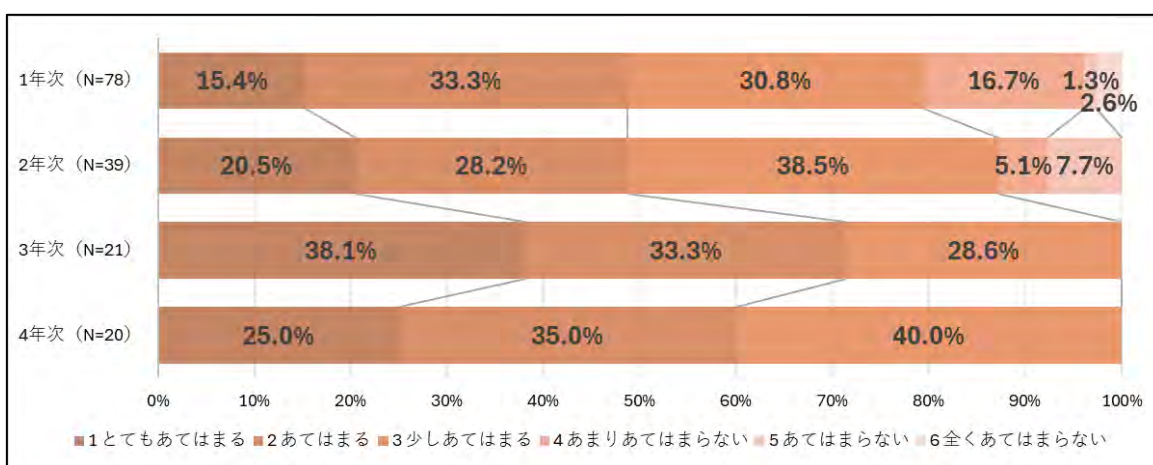
スタンダード 6 . 新しい社会を生きる:

Society 5.0 において、幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え、多様な他者との協働により未知の社会的課題を解決に導くための能力

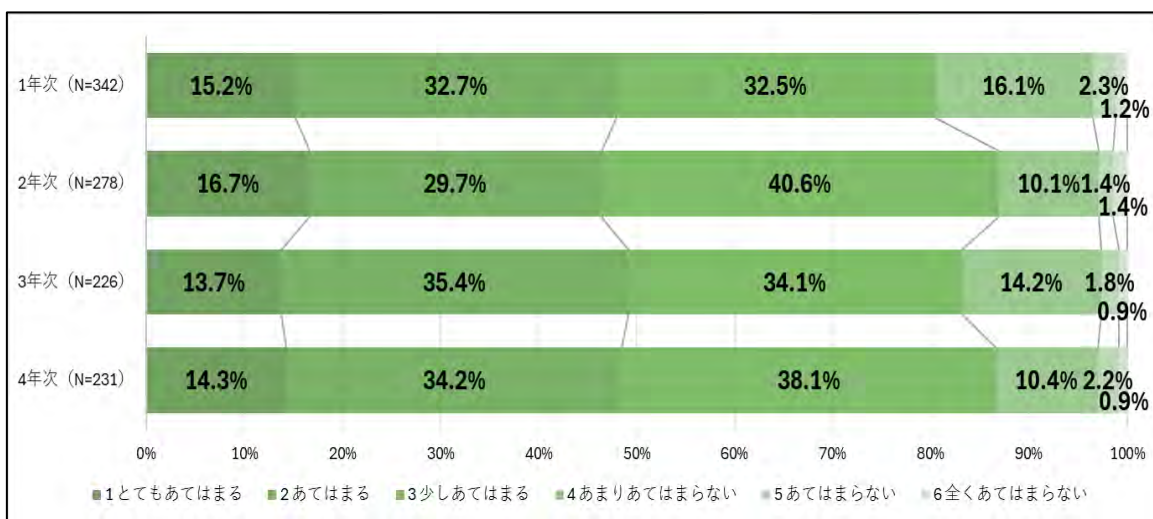
問 7-6 幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげるとともに、新たな物事にチャレンジすることができる。

1. とてもあてはまる 2. あてはまる 3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない 6. 全くあてはまらない

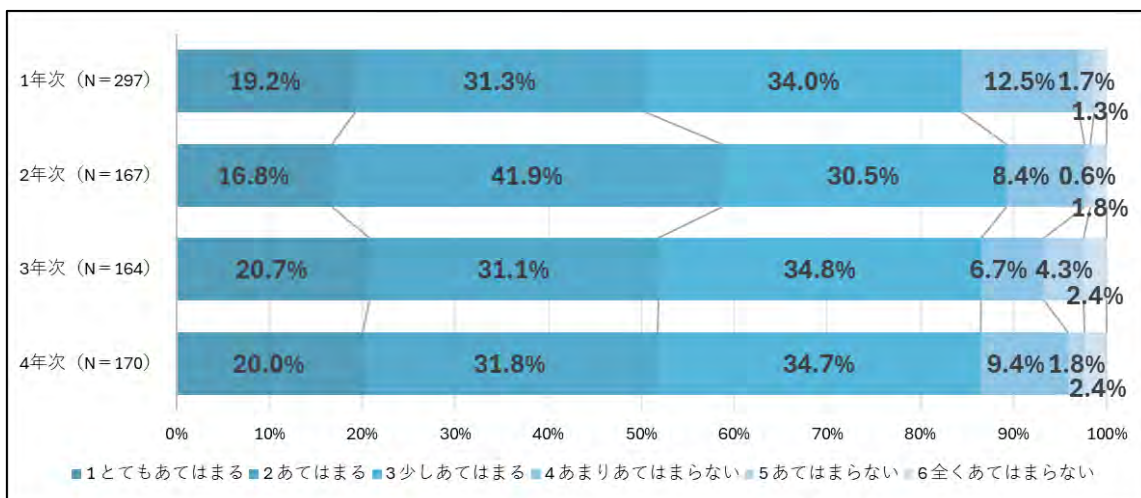
【融合学域】



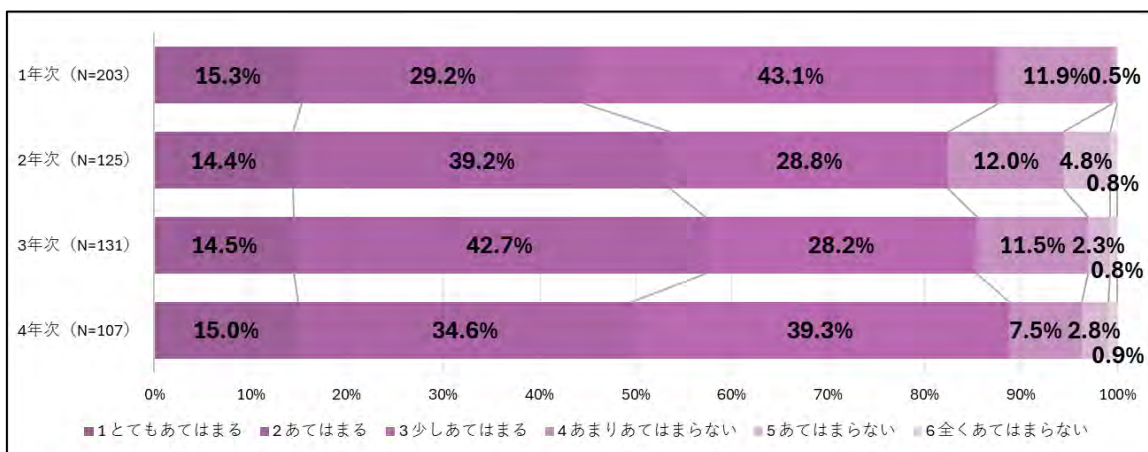
【人間社会学域】



【理工学域】



【医薬保健学域】



➡融合学域において、3年次学生の自己評価が顕著に高くなっている。

図表Ⅱ-6 令和6年度学生生活実態調査における「金沢大学<グローバル>スタンダード」達成度測定結果概要

4.2 卒業・修了後アンケートの定期的実施

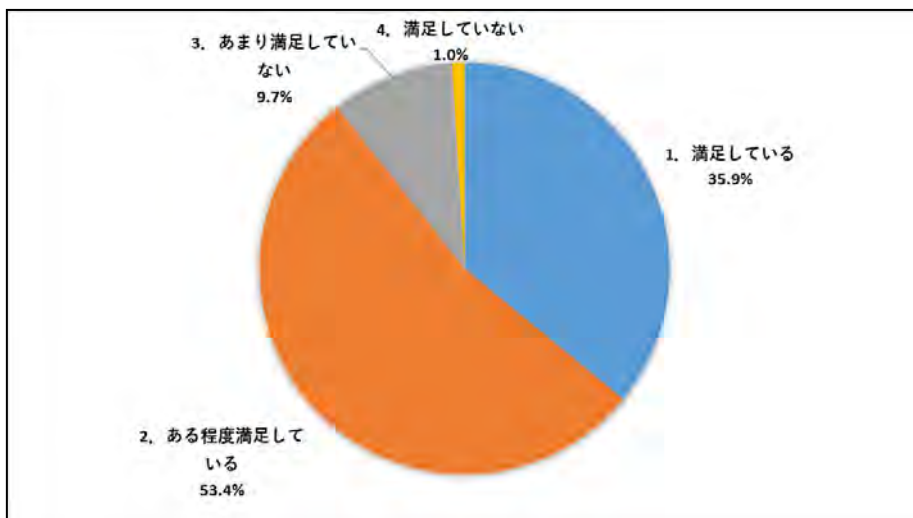
令和5年度卒業・修了後アンケートについて、前年度同様に、金沢大学IDを活用して実施した。「金沢大学における教育の内部質保証に関する指針」（令和6年2月9日、令和5年度第12回教育企画会議決定）に基づき、卒業・修了後3年の者を対象に毎年度実施することとした。このため、今回は、令和2年度に卒業・修了した2,589名を対象に当該アンケートを実施した。令和6年3月26日～5月13日の回答期間において132件の回答があり、そのうち、有効回答数は113件（対象者2,589名、回答率4.4%）であった。

卒業・修了部局	回答者数
人間社会学域	33
理工学域	28
医薬保健学域	12
学士課程 小計	73
人間社会環境研究科	
博士前期課程	1
自然科学研究科	
博士前期課程	21
博士後期課程	3
医薬保健学総合研究科	
博士前期課程	8
博士課程	4
新学術創成研究科	
博士前期課程	2
教職実践研究科	1
大学院課程 小計	40
総計	113

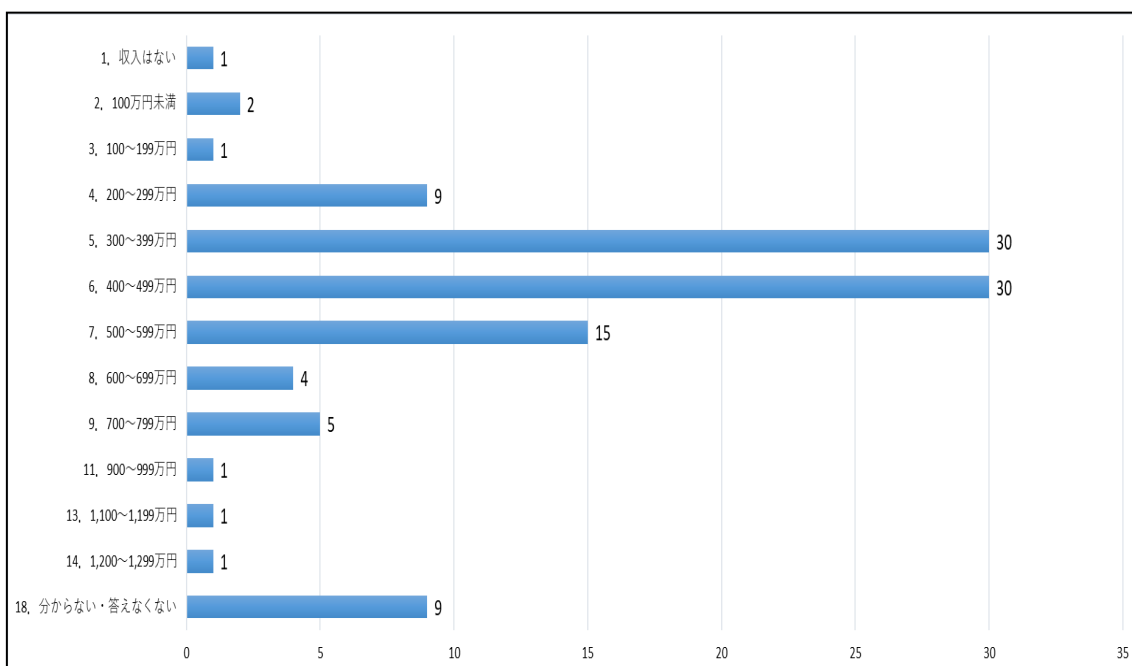
4.2.1 現在の職種（N=105）

	1. 事務職	2. 経営・管理職	3. 技術職	4. 技能職	5. 教育職	6. 研究職	7. 販売・サービス	8. 専門職・自由業	11. アルバイト・派遣社員	その他	総計
人間社会学域	18	3	3		4		1		1	1	31
理工学域	2		17		1	3	1				24
医薬保健学域			3		1	3	1	2		2	12
人間社会環境研究科											
博士前期課程						1					1
自然科学研究科											
博士前期課程			2			1					3
博士後期課程			13			7					20
医薬保健学総合研究科											
博士前期課程			1	1	1	4		1			8
博士課程			1	1				2			4
新学術創成研究科											
博士前期課程			1								1
教職実践研究科					1						1
総計	20	3	41	2	8	19	3	5	1	3	105

4.2.2 現在の職業満足度 (N=103)

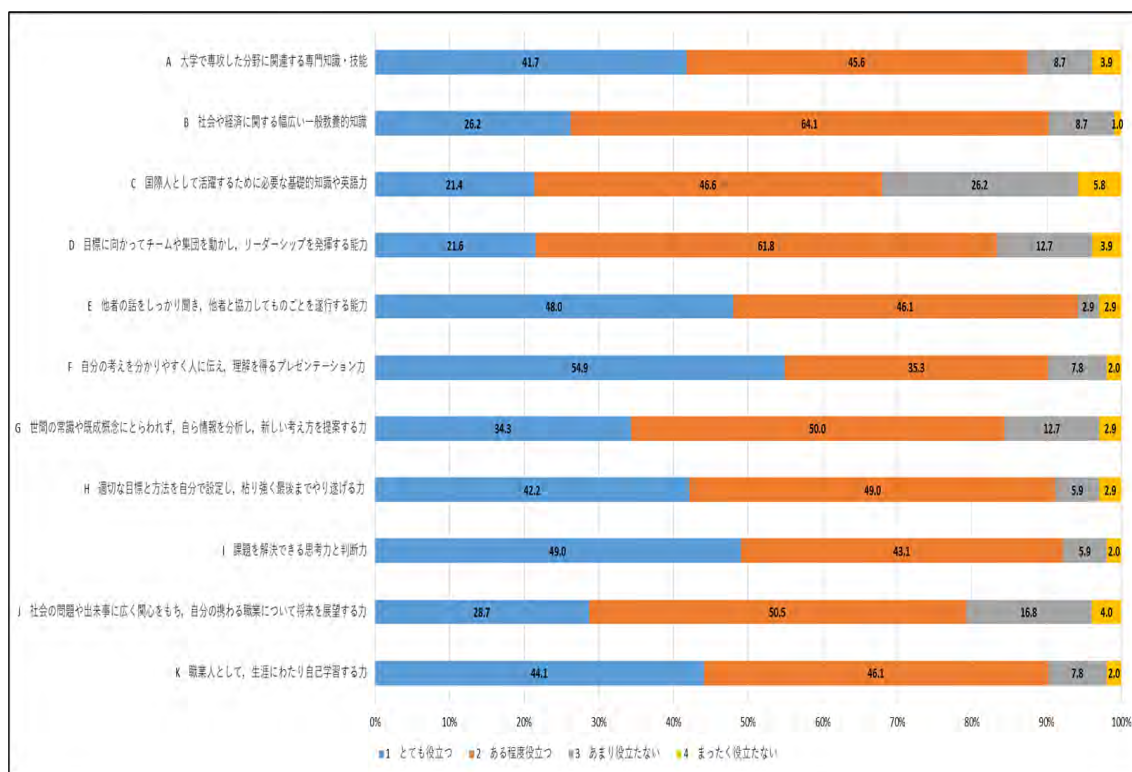


4.2.3 現在の個人年収 (N=109)



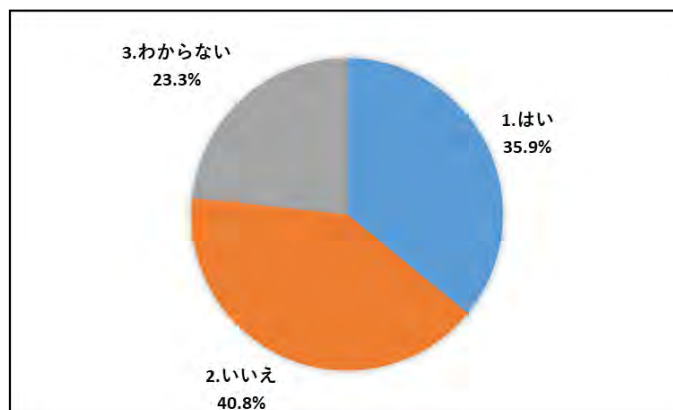
4.2.4 大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合い (N=103)

大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合いでは、「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」「課題を解決できる思考力と判断力」「職業人として、生涯にわたり自己学習する力」が特に高い結果となっている。



4.2.5 大学・大学院における学び直しの希望の有無 (N=103)

問8の大学・大学院における学び直しについて、35.9%の割合で希望ありと答えており、学び直し向けの効果的な情報発信等を行っていく必要がある。



図表 II-7 令和5年度「卒業・修了後アンケート」結果概要

4.3 就業先企業アンケートの定期的実施

『教学マネジメント指針』において「卒業生に対する評価」「卒業生からの評価」が求められていることから、令和4年度より「就業企業先アンケート」を2年に一回の頻度で定期的実施することとしており、令和6年度実施分の回答概要について、令和4年度実施分との比較を中心に掲載する。

【実施方法】

実施対象：令和6年11月9日（土）～10日（日）及び11月16日（土）～17日（日）

開催の業界・企業研究会参加企業 260社

実施方法：WEBアンケート

回答社数：117社（回答率45.0%）

【令和6年度 金沢大学 就業先企業アンケート回答結果】

1. 貴事業所の概要についてお伺いします。

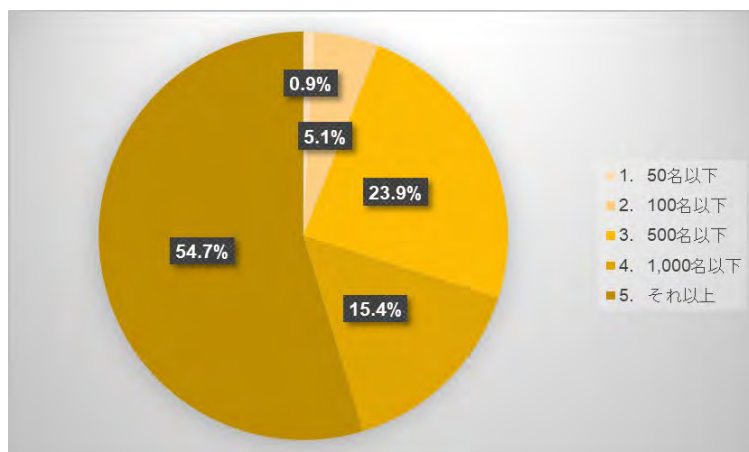
問1 本社又はご回答者の所属する事業所の所在地についてお答えください。

1. 北海道・東北 2. 関東 3. 甲信越 4. 富山県 5. 石川県 6. 福井県
7. 東海 8. 関西 9. 中国・四国 10. 九州・沖縄 11. 外国

本社又は事業所の所在地	回答数
1. 北海道・東北	1
2. 関東	35
3. 甲信越	5
4. 富山県	12
5. 石川県	35
6. 福井県	8
7. 東海	14
8. 関西	7
総計	117

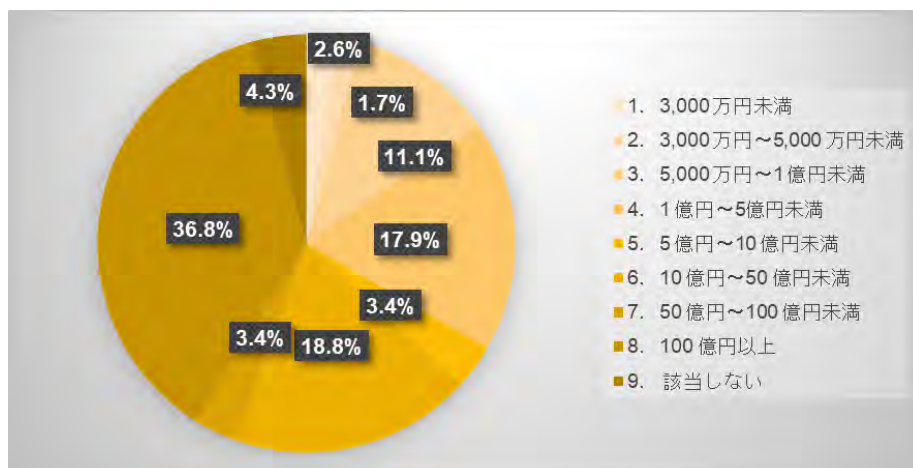
問2 従業員・職員数（企業の場合は貴社全体の人数）についてお答えください。

1. 50名以下 2. 100名以下 3. 500名以下 4. 1,000名以下 5. それ以上



問3 資本金についてお答えください（企業の場合のみお答えください）。

1. 3,000万円未満 2. 3,000万円～5,000万円未満 3. 5,000万円～1億円未満
 4. 1億円～5億円未満 5. 5億円～10億円未満 6. 10億円～50億円未満
 7. 50億円～100億円未満 8. 100億円以上 9. 該当しない



問4 貴事業所の主たる業種についてお答えください。

1. 農林・漁業 2. 鉱業、採石業、砂利採取業 3. 建設業 4. 製造業
 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 6. 情報通信業 7. 運輸業、郵便業
 8. 卸売業、小売業 9. 金融業、保険業 10. 不動産業、物品賃貸業
 11. 学術研究、専門・技術サービス業 12. 宿泊業、飲食サービス業
 13. 生活関連サービス業、娯楽業 14. 教育、学習支援業 15. 医療、福祉
 16. 複合サービス事業 17. サービス業(他に分類されないもの) 18. 公務
 19. 上記以外（ ）

主たる業種	回答数
2. 鉱業、採石業、砂利採取業	1
3. 建設業	8
4. 製造業	58
5. 電気・ガス・熱供給・水道業	1
6. 情報通信業	16
7. 運輸業、郵便業	3
8. 卸売業、小売業	4
9. 金融業、保険業	11
11. 学術研究、専門・技術サービス業	5
13. 生活関連サービス業、娯楽業	1
15. 医療、福祉	2
16. 複合サービス事業	1
17. サービス業(他に分類されないもの)	3
18. 公務	3
総計	117

II. 金沢大学卒業生・大学院修了者の評価，本学に求めることなどをお伺いします。

問5 現在の金沢大学卒業生・大学院修了者の在職者数についてお答えください。

1. 0名 2. 5名以下 3. 6～10名 4. 11～25名 5. 26名以上

※「1.」と回答した場合は，問8へお進みください。

現在の金沢大学卒業生・大学院修了者の在職者数	回答数
1. 0名	1
2. 5名以下	32
3. 6～10名	22
4. 11～25名	38
5. 26名以上	24
総計	117

問6 貴事業所における直近5ヶ年の金沢大学卒業生・大学院修了者に対する業務遂行上の満足度をお答えください。

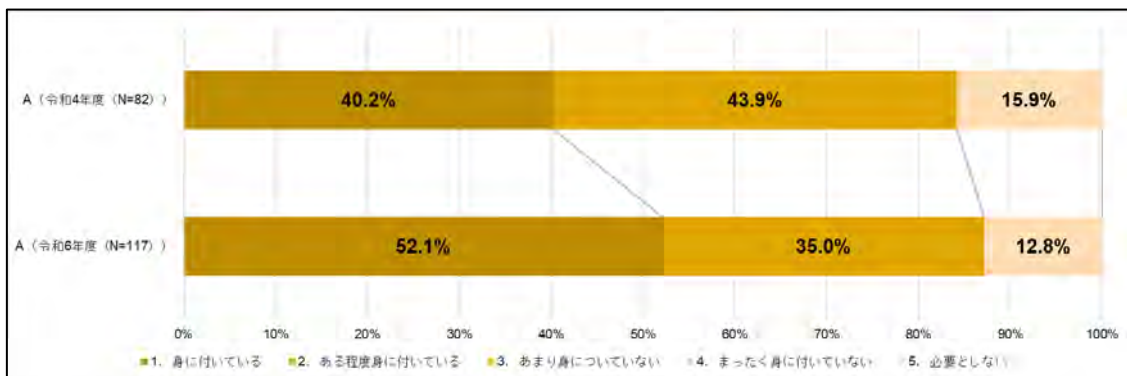
1. 満足 2. ある程度満足 3. やや不満 4. 不満
5. 直近5ヶ年での金沢大学卒業生・大学院修了者がいない

満足度	回答数
1. 満足	72
2. ある程度満足	29
5. 直近5ヶ年での金沢大学卒業生・大学院修了者がいない	16
総計	117

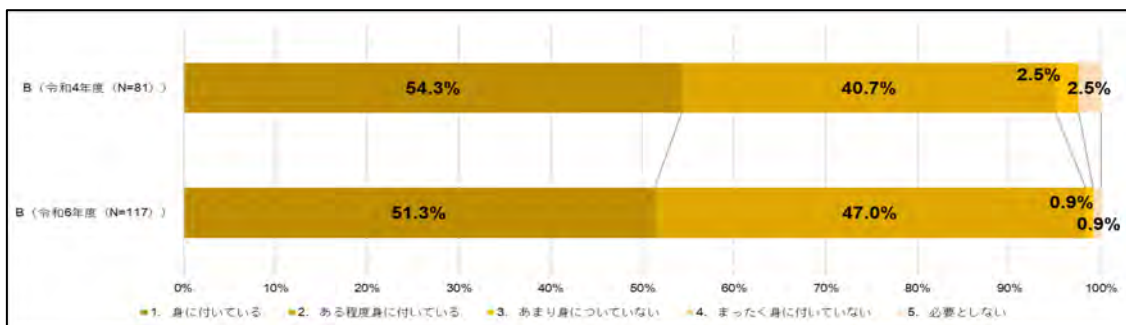
問7 金沢大学卒業生・大学院修了者は，現在担当している職務を遂行する上で必要とされる以下のような能力をどの程度身に付けているか，それぞれについてお答えください（必要としない能力は「必要としない」をお選びください）。

A 大学で専攻した分野に関連する専門知識・技能

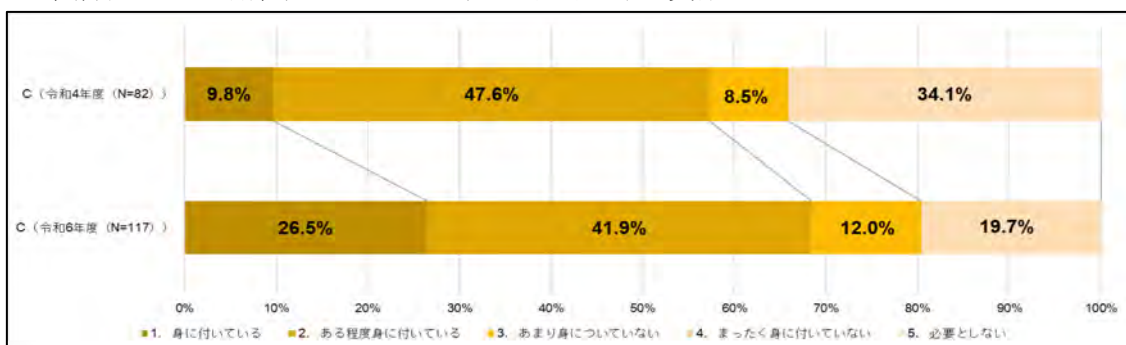
1. 身に付いている 2. ある程度身に付いている
3. あまり身に付いていない 4. まったく身に付いていない 5. 必要としない



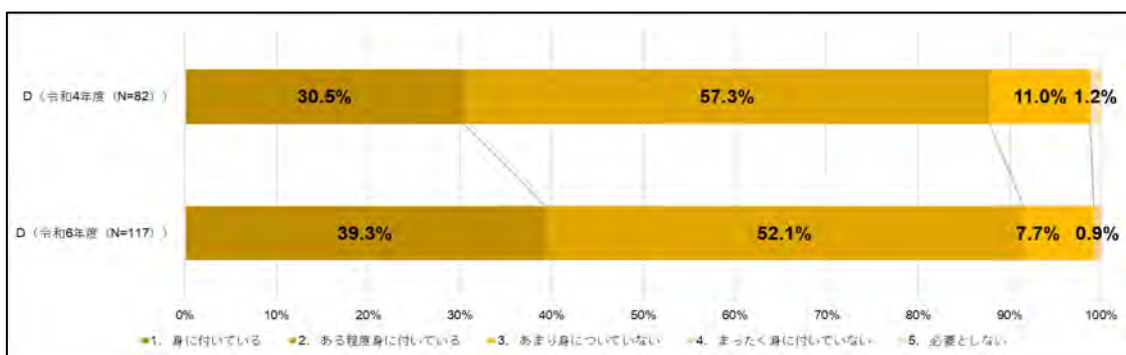
B 社会や経済に関する幅広い一般教養的知識



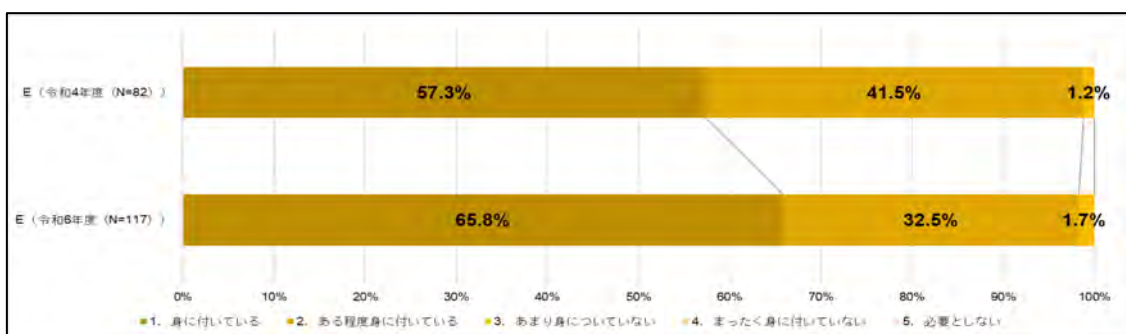
C 国際人として活躍するために必要な基礎的知識や英語力



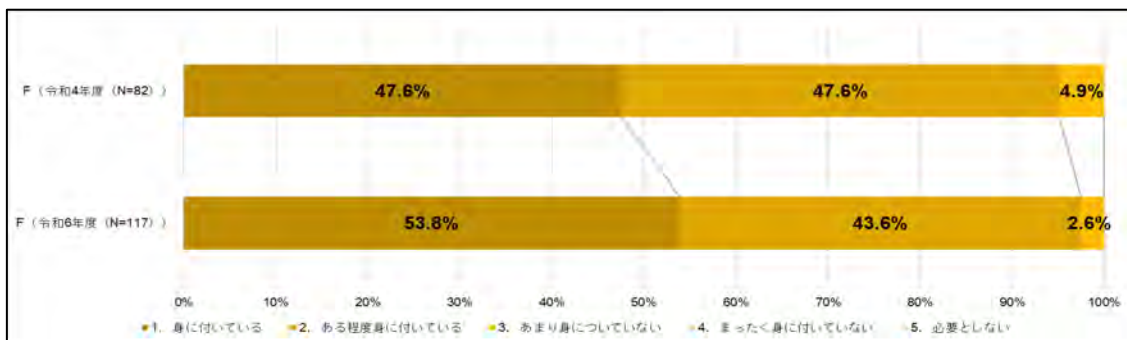
D 目標に向かってチームや集団を動かし、リーダーシップを発揮する能力



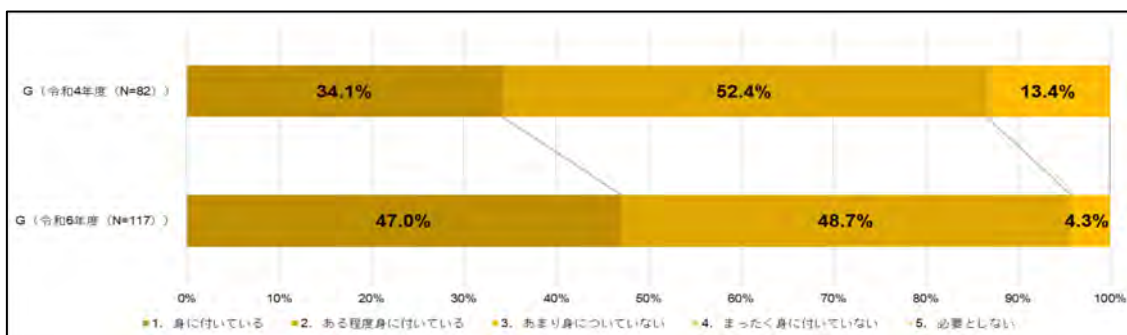
E 他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力



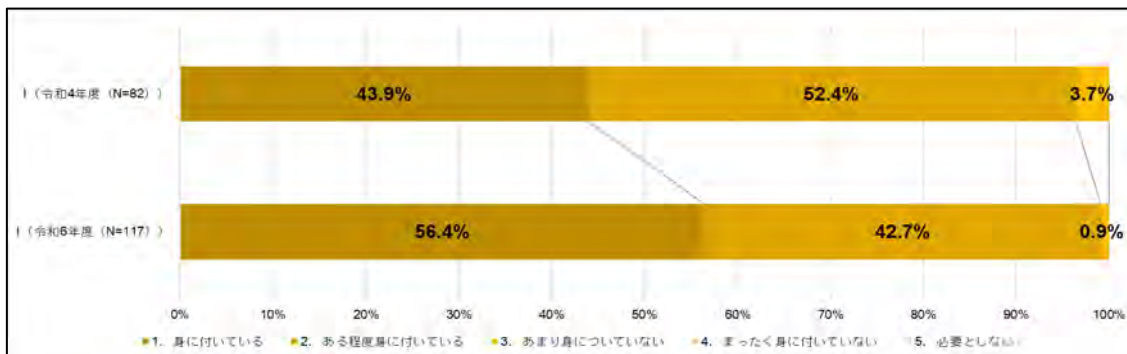
F 自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力



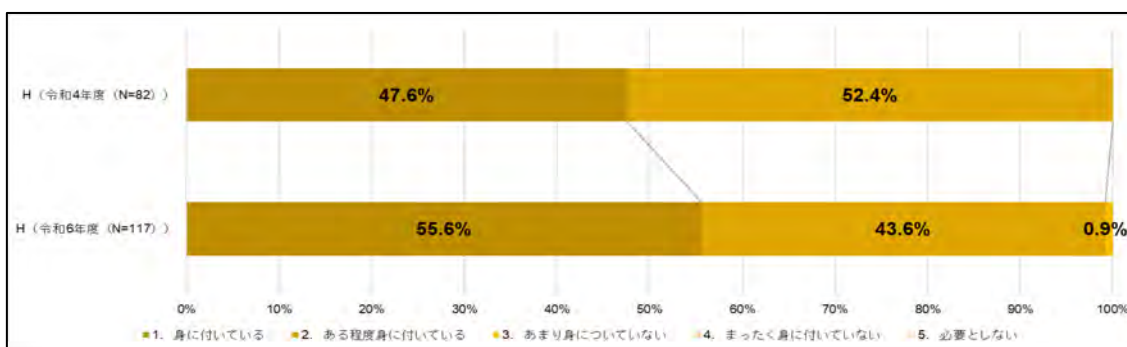
G 世間の常識や既成概念にとらわれず、自ら情報を分析し、新しい考え方を提案する力



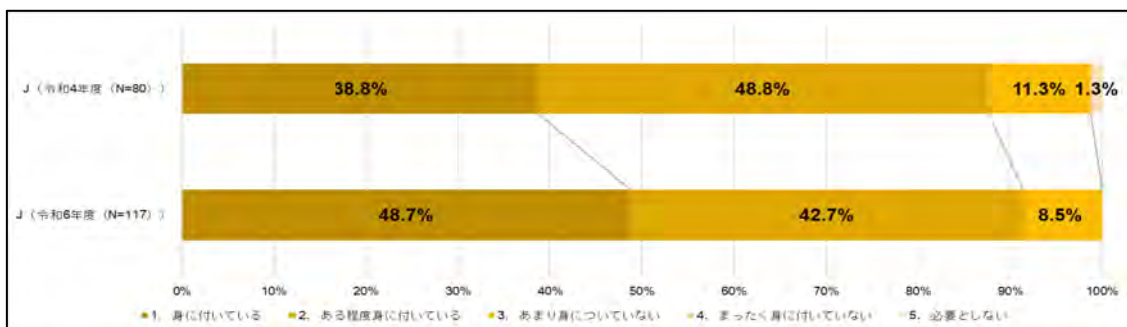
H 適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力



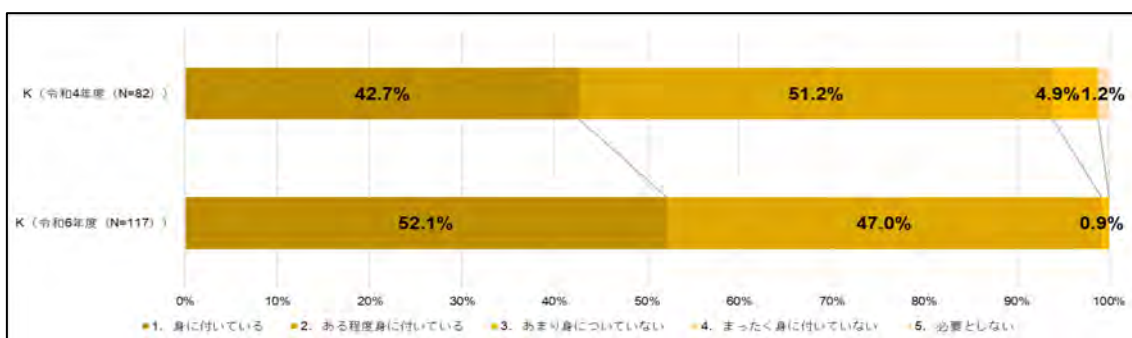
I 課題を解決できる思考力と判断力



J 社会の問題や出来事に広く関心をもち、自分の携わる職業について将来を展望する力

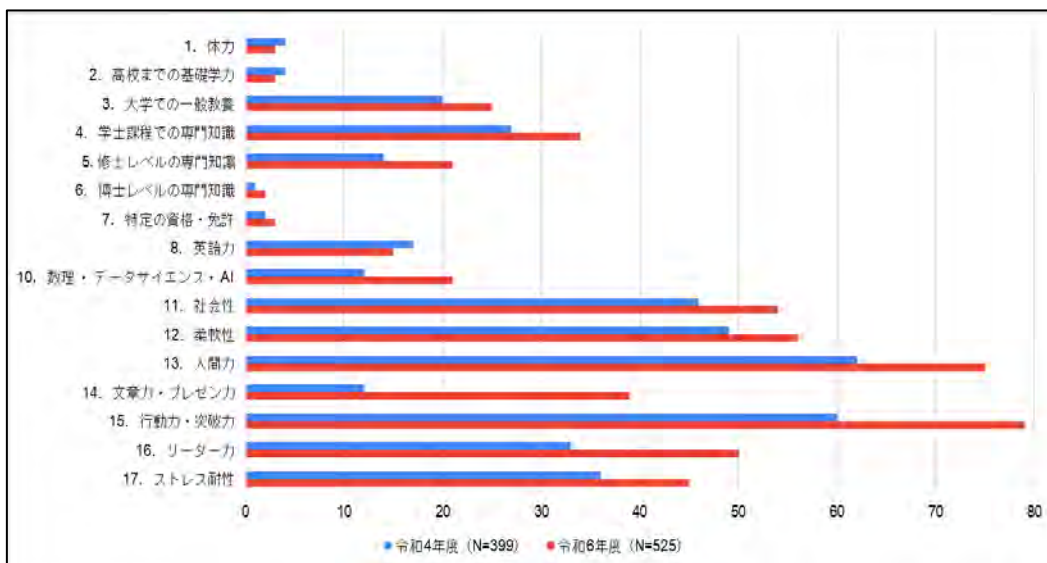


K 職業人として、生涯にわたり自己学習する力



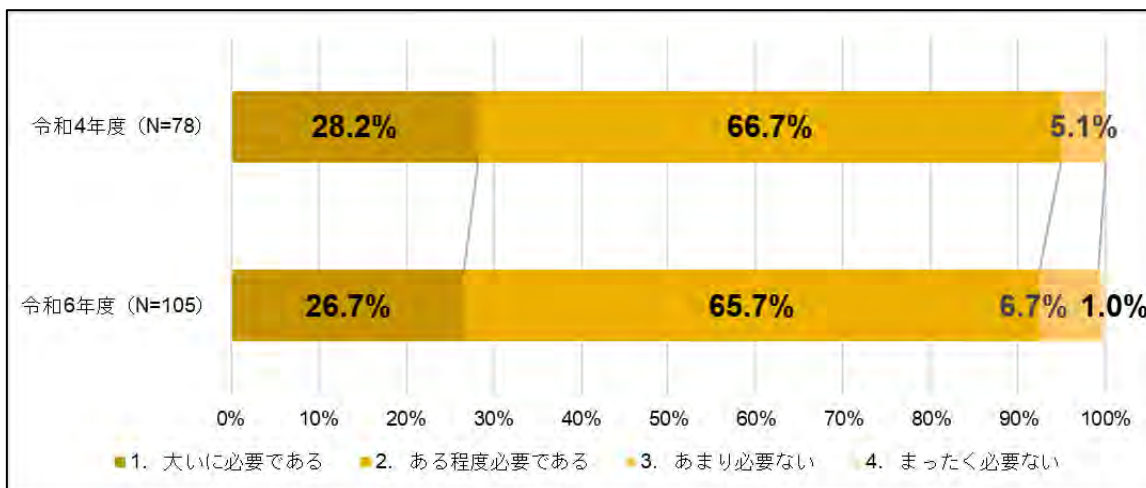
問8 今後、金沢大学は、学生に対してどのような資質・能力の育成の充実を図ることが望ましいと思いますか。最大5つまで選択ください。

1. 体力
2. 高校までの基礎学力
3. 大学での一般教養
4. 学士課程での専門知識
5. 修士レベルの専門知識
6. 博士レベルの専門知識
7. 特定の資格・免許
8. 英語力
9. 英語以外の語学
10. 数理・データサイエンス・AI
11. 社会性
12. 柔軟性
13. 人間力
14. 文章力・プレゼン力
15. 行動力・突破力
16. リーダー力
17. ストレス耐性



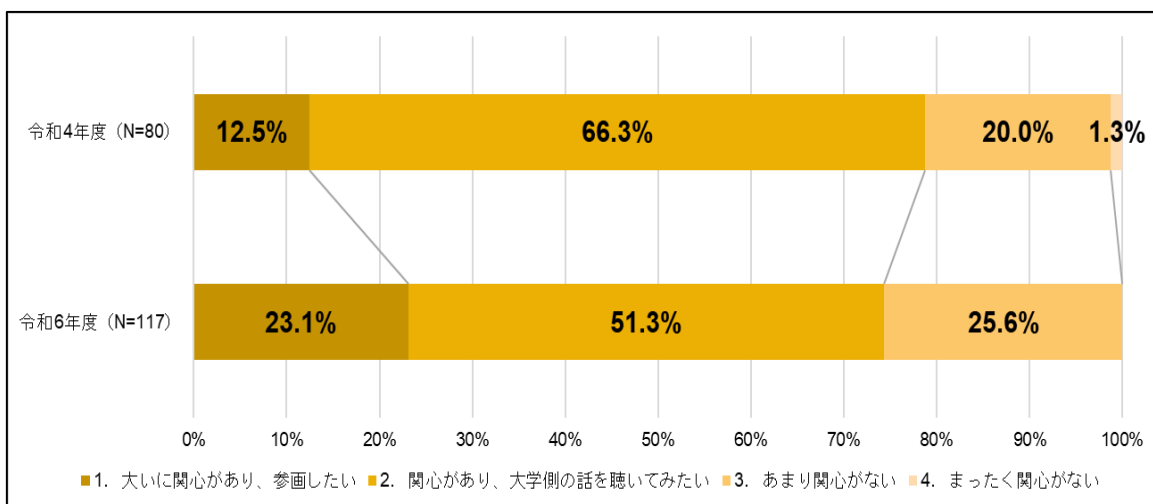
問 9 文系・理系の枠にとらわれない文理融合・分野横断型教育（STEAM 教育）の必要性について、お答えください。

1. 大いに必要である
2. ある程度必要である
3. あまり必要ない
4. まったく必要ない
5. わからない



問 10 金沢大学が企業等と連携して授業科目開発に取り組んでいる「課題解決型学習」や「実践型インターンシップ」に対する貴事業所の関心度合について、お答えください。

1. 大いに関心があり、参画したい
2. 関心があり、大学側の話を聴いてみたい
3. あまり関心がない
4. まったく関心がない



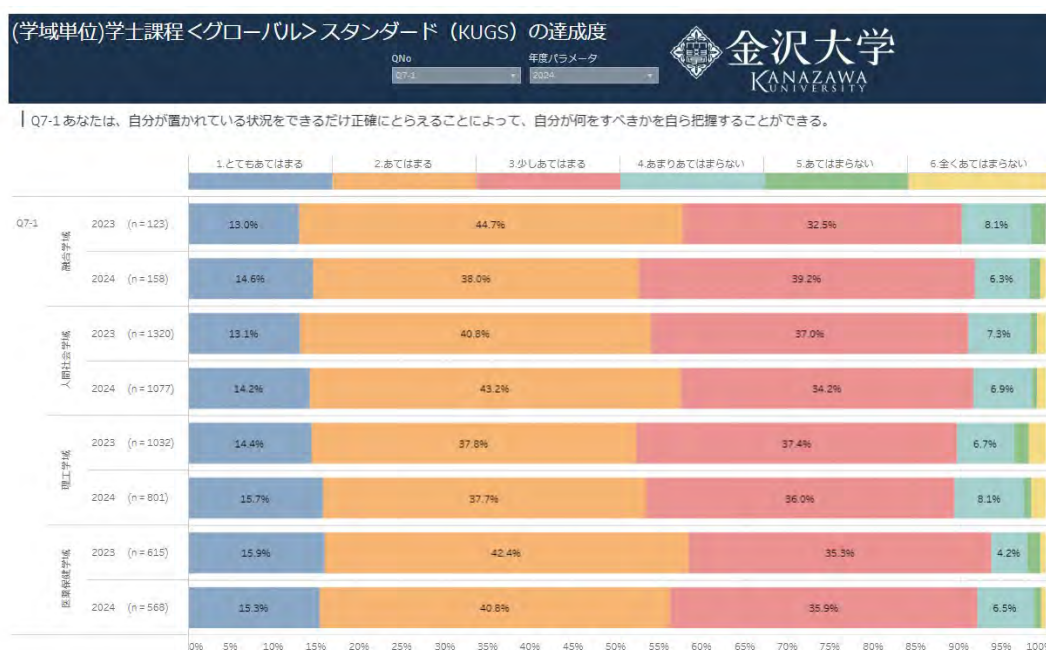
図表 II-8 令和6年度「就業先企業アンケート」結果概要

5. 教学 IR 環境の整備

令和 3 年度に、教学マネジメントセンターが中心となり、授業評価アンケートにおける共通設問化、卒業・修了者アンケートにおける学生生活満足度の設問の統一化を行うとともに、当該結果の集計を教学マネジメントセンターで行う環境を整備した。

令和 4 年度から令和 5 年度にかけて、FD 委員会を通して、当該集計結果を各部署にフィードバックする環境を整えるとともに、FD 活動報告書における当該集計結果概要を掲載、さらには、教学マネジメント FACTBOOK の刊行にまで至った。

BI ツールの Tableau を活用し、授業評価アンケート及び卒業・修了者アンケート集計結果のダッシュボードを整備し、教学マネジメントセンター「教学 IR ダッシュボード」と称して、学内外に公表している。令和 6 年度には、新たに、学士課程<グローバル>スタンダード達成度の可視化を追加整備した。以上により、大学全体・学位プログラム・授業科目レベルに関する代表的な学修成果指標のダッシュボード化を完了することができた。



図表 II-9 学士課程<グローバル>スタンダード達成度可視化ダッシュボード (一部)

Ⅲ. 学位プログラムレベル

Ⅲ 学位プログラムレベル

教学マネジメントセンターでは、令和3年度の創設以降、令和4年度に3つのポリシーの一貫性のある見直し、令和5年度にカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的再整備を行いつつ、授業評価アンケート等の学修成果把握のための教学IR環境の整備を進め、その総決算として、「教育の内部質保証に関する指針」を令和5年度末に策定するまでに至った。

令和5年度までに、学位プログラムレベル、授業科目レベルを中心とした教学マネジメントに関する基本的な環境整備が完了したため、令和6年度においては、大学院教育の質保証にも着目し、従来から継続検討していた大学院課程<グローバル>スタンダードの改訂、各研究科の専攻長ヒアリングの実施を行った。令和7年度以降は、学士課程・大学院課程に関する一連の教育改革に寄与できるような組織基盤を整えた。

1. 大学院課程<グローバル>スタンダードの改訂

未来創成教育環 GS 教育企画部「学士・大学院一貫教養教育ワーキング・グループ」における教学マネジメントセンターからの「大学院課程<グローバル>スタンダード」改訂提案を踏まえながら協議を重ね、令和6年7月の教育研究評議会において承認された。

基本的には、現行の内容を踏襲しつつ、一部の内容変更を行いながら、「1. グローバルマインドと明確な倫理的思考」「2. 交渉力・統率力・実践力」の2項目に加え、下記の中教審大学分科会審議まとめ内容などを参考にして、新たに「3. 多様な「知」を融合し、新たな価値を創出する総合知」「4. トランスファラブルスキル」を加えることとした。具体的な改訂内容は以下のとおりである。

図表Ⅲ-1 大学院課程<グローバル>スタンダード改正前・改正後

(改正前)

1. 強固なグローバルマインドと明確な倫理的思考	2. 創造性・交渉力・統率力・実践力
今後、人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力	解決困難な課題にも、革新的なアイデアと粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を開く能力

(改正後)

1. グローバルマインドと明確な倫理的思考	2. 交渉力・統率力・実践力	3. 多様な「知」を融合し、新たな価値を創出する総合知	4. トランスファラブルスキル
人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力	解決困難な課題に粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を開く能力	高度な専門性をもって多様な分野を統合し社会を先導できる能力	生涯を通じて、高度な社会課題に関する問題発見・問題解決の場面に適用できるトランスファラブルな能力
《キーワード》 グローバル 文化・歴史理解 アイデンティティ ELSI (倫理的・法的・社会的課題)	《キーワード》 エンゲージメント リーダーシップ マネジメント レジリエンス	《キーワード》 高度な専門性 未来知 創造性 アントレプレナーシップ	《キーワード》 トランスファラブル データサイエンス DXリテラシー AIリテラシー

「大学院課程<グローバル>スタンダード」の改訂に伴い、令和4年度から開講している大学院GS基盤科目及び大学院GS発展科目との関係性を明確化したカリキュラム・マップを以下のとおり整えた。

図表Ⅲ-2 大学院GS基盤科目及び大学院GS発展科目カリキュラム・マップ

修士・博士前期課程/大学院GS基盤科目に関するカリキュラム・マップ

授業科目名	単位	必修・選択の別	大学院課程<グローバル>スタンダードにおける学修目標			
			1. グローバルマインドと複雑な倫理的思考：人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一歩の人間として、確たる倫理的意識性をもった見識と判断の下に行動を遂行する能力	2. 交渉力・協働力・実践力：解決困難な課題に切り抜く交渉力を養出し、強い結束力と豊かな実践力をもって問題を打開する能力	3. 多様な「知」を統合し、新たな価値を創出する統合的知：高度な専門性をもって多様な分野を統合し、社会を先導できる能力	4. トランスファラブルスキル：生涯を通じて、高度な社会課題に関する問題発見・問題解決の場面に適用できるトランスファラブルな能力
異分野研究実習Ⅰ Laboratory Rotation Ⅰ	0.5	必修				
異分野研究実習Ⅱ Laboratory Rotation Ⅱ	0.5	必修				
研究者倫理 Research Ethics	1	必修				
知識基約型社会とデータサイエンス Data Science in Society 5.0	1	選択 必修 1単位				
次世代の先端科学技術 Advanced Science and Technology in the Next Generation	1					
スマート創成科学 Smart Science and Technology for Innovation	1					
イノベーション方法論 Innovation Methodology	1					
数理・データサイエンス・AI基礎 Mathematical, Data Science, and AI Basic	1					
人間と社会の課題 Human and Social Challenges	1	選択 必修 1単位				
ビジネス・技術マネジメント概論 Strategy for Business and Technology Management	1					
ヘルスケア・イノベーション Innovation in Healthcare	1					
破壊的イノベーションに向けた技術経営論 MOT as for Disruptive Innovation	1					

博士・博士後期課程/大学院GS発展科目に関するカリキュラム・マップ

授業科目名	単位	必修・選択の別	大学院課程<グローバル>スタンダードにおける学修目標			
			1. グローバルマインドと複雑な倫理的思考：人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一歩の人間として、確たる倫理的意識性をもった見識と判断の下に行動を遂行する能力	2. 交渉力・協働力・実践力：解決困難な課題に切り抜く交渉力を養出し、強い結束力と豊かな実践力をもって問題を打開する能力	3. 多様な「知」を統合し、新たな価値を創出する統合的知：高度な専門性をもって多様な分野を統合し、社会を先導できる能力	4. トランスファラブルスキル：生涯を通じて、高度な社会課題に関する問題発見・問題解決の場面に適用できるトランスファラブルな能力
次世代研究者倫理 Research Ethics for Ph.D. Researchers	1	必修				
次世代エッセンシャル実習 Transferable Skills for Ph.D. Researchers	1	必修				
次世代イノベーション開拓 Unleashing the Potential of Innovation for Future	1	選択必修 1単位				
数理・データサイエンス・AI発展 Mathematical, Data Science, and AI Advanced	1					
国際研究実践 International Collaborative Research for Innovation	1	必修				
ジョブ型研究インターンシップ Cooperative Education through Research Internships	2	選択				

さらに、当該スタンダードに関する学修成果の可視化について、大学院学生版学生生活実態調査、トランスファラブルスキル・トレーニング参加者へのアンケート調査などの方法で今後対応していく予定である。

2. (研究科) 専攻長ヒアリング (対話型 FD) の実施

令和 5 年度において、学類長を対象としたヒアリング(対話型 FD)を行うことを通して、各学類における教学マネジメントの実態や文理融合・分野横断に関連した教育活動の工夫等に関する多くの知見を得ることができた。

令和 6 年度においては、各研究科・専攻における教学マネジメントの実態を把握することを目的とした専攻長ヒアリング(対話型 FD)を企画することとした。本学において重視している大学院教育の質保証のため、近年、導入した博士論文研究基礎力審査 QE (Qualifying Exam) 制度、大学院 GS 基盤科目・大学院 GS 発展科目、ラボ・ローテーション制度を含め、コースワークや研究室教育を通じたカリキュラム・マネジメントや学修成果の把握の観点から、ヒアリング調査を実施した。

【調査対象・実施時期】

調査対象：全研究科(修士課程、博士前期課程・博士後期課程、博士課程、専門職学位課程)
の 23 専攻

対応者：専攻長及び教務担当教員

実施時期：令和 6 年 5 月 27 日(月)～7 月 12 日(金) 各 1 時間半程度

【ヒアリング項目】

以下の項目を事前に送付し、半構造化インタビュー形式で行った。なお、以下の項目以外に、「研究科・専攻における教学関係会議」「全学委員会から依頼事項に対する研究科・専攻内での作業系統」「アドバイザー教員、指導教員等を通じた学生支援」のほか、「授業評価アンケート結果、卒業・修了者アンケート結果の活用度合」を聴取した。

- ① (研究科) 専攻における DP・CP の認知度、大学院学生への説明機会について
- ② (研究科) 専攻におけるカリキュラム点検、シラバス点検について
- ③ (研究科) 専攻における専門教育の特徴、強み、課題について
- ④ (研究科) 専攻における研究室教育について
- ⑤ 大学院学生の学修行動、学修成果(専門性と汎用性)の把握について
- ⑥ 修士研究・博士研究の審査基準、審査体制について
- ⑦ QE 制度等を含めた学士課程と修士課程・博士前期課程の接続、修士課程・博士前期課程と博士課程・博士後期課程の接続について
- ⑧ ラボ・ローテーションの運営について
- ⑨ 大学院学生に対する学生支援、キャリア支援について
- ⑩ (研究科) 専攻における FD 活動について

【ヒアリング調査結果概要】

<教学マネジメント関係>

- ① (研究科) 専攻における DP・CP の認知度、大学院学生への説明機会について
- ② (研究科) 専攻におけるカリキュラム点検、シラバス点検について

大半の研究科では、履修案内(学生の手引き)において、ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)を掲載している。なお、自然科学研究科のみ、QR コードでの掲載に留まっている。形式的ではあるが、大学院課程における DP・CP の浸透度合いは

高まっている。大半の研究科において、修士課程・博士前期課程を中心に、入学時のオリエンテーションにおいて、DP・CPに関連した説明を行っている。

また、カリキュラム点検、シラバス点検についても日常的に行われているが、卒業・修了者アンケート結果の共有について、昨年度の学類長ヒアリングと同様に、不十分な専攻が一部見られた。

<大学院専門教育の特徴、強み、課題>

③（研究科）専攻における専門教育の特徴、強み、課題について

④（研究科）専攻における研究室教育について

人間社会環境研究科、法学研究科、教職実践研究科においては、専攻としての専門教育の特徴や強みが明確化しており、かつ、履修案内等で履修モデルを明示するなど、きめ細かい配慮がなされている。

自然科学研究科については、企業就職の前提として博士前期課程に進学する学生が多く、博士後期課程進学者の確保に苦慮しているケースが見られるが、機械科学を始め、専門分野として博士人材の不足・必要性を訴えるケースが見られた。

医学・薬学・保健学の各専攻においては、非医学系の学生を受け入れる専攻が存在するなど、多様な学生を受け入れるための専門教育プログラムの魅力発信や広報戦略を着実に進めている印象を受けた。専攻としての専門教育の特徴や強みに関する言語化も非常にスムーズであった。なお、薬学専攻における博士課程入学者増の傾向が見られる一方、創薬科学専攻における医薬科学類との接続を通じた進学者のあり方に課題が感じられた。

新学術創成研究科については、異分野融合や最先端のナノ研究分野など、工夫を凝らしたカリキュラム構成や研究指導体制が組まれているが、博士前期課程入学者や博士後期課程進学者の確保に課題を残している。入学者を学内リソースに依存することなく、異分野融合等の魅力発信を通して、学外からの入学者獲得戦略が期待される。

<大学院専門教育における学修成果の把握>

⑤大学院学生の学修行動、学修成果（専門性と汎用性）の把握について

⑥修士研究・博士研究の審査基準、審査体制について

人間社会環境研究科が積極的に取り組む「研究カンファレンス」を中心に、修士研究や博士研究の進捗や学修成果を把握する機会設定がなされている。

自然科学研究科フロンティア工学専攻では、当該専攻の分野横断の特徴を活かして、研究室やコースの垣根を越えた形での大学院生発表会が行われている。

新学術創成研究融合科学共同専攻では、金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学の教員が複数指導体制に参画し、幅の広い指導を受けることができる環境となっている。

先進予防医学共同研究科においても、金沢大学・千葉大学・長崎大学の教員が主指導・副指導教員に参画する体制を構築している。

修士研究・博士研究における審査基準、審査体制、さらには、学位審査に至るスケジュールについては、大半の研究科において履修案内またはホームページ等で明示されている。前回の機関別認証評価での指摘に伴う対応は適切に行われていることを確認した。

<近年の大学院教育改革に伴う対応の現状>

⑦QE 制度等を含めた学士課程と修士課程・博士前期課程の接続，修士課程・博士前期課程と博士課程・博士後期課程の接続について

⑧ラボ・ローテーションの運営について

QE 制度については，博士前期課程においては，原則として QE で修了することとしているが，修士論文をまとめあげることの重要性を訴える専攻が多く見られた。

ラボ・ローテーションについては，大学院 GS 基盤科目「異分野研究探査 I・II」そのものの趣旨目的の共通理解の徹底や教員の負担感の解消が課題であると感じられた。例えば，全学の研究科を越えた研究交流会のような会にしてはどうかという提案（＝教員の負担を減らし，学生の研究時間の確保しつつ異分野との交流の機会を確保する）があった。

<大学院における学生支援や FD>

⑨大学院学生に対する学生支援，キャリア支援について

⑩（研究科）専攻における FD 活動について

学生支援については，どの研究科においても研究連携協力教員制度が浸透している。

キャリア支援については，主に，自然科学研究科博士前期課程の学生向けに，専攻単位で企業説明会等を行うケースが一部見られる。

FD 活動については，学類と合同で行うケースが多く，大学院教育に特化して実施している事例は，法学研究科法務専攻，教職実践研究科といった専門職学位課程である。この 2 部局については，専門分野別認証評価等の外部評価が厳格であり，授業評価アンケートの分析，各種 FD 研修会が相当の頻度で実施されている。

<その他>

★大学院教育におけるオンライン授業やオンデマンド教材の有効活用

先進予防医学共同研究科では，コロナ禍を通して，多くの授業を VOD（オンデマンド）化と双方向オンラインで行っているが，オンデマンド率が高いため，最新の研究内容をいかに盛り込むかを議論している。その一方で，社会人大学院生が多い保健学専攻などでは，夜間や臨床業務が増えると両立が難しいという声が多い。また，遠方の学生にはなるべく双方向性のオンラインで対応しているほか，ラボ・ローテーションや大学院 GS 科目でも対面の科目が多く，社会人大学院生を受け入れる対応を検討する必要がある。医科学専攻・医学専攻は合同のオンライン説明会を行ったところ，例年を大きく上回り，海外からの参加も見られた（＝社会人大学院生の受け入れに向けた広報と制度設計）。

★ 博士進学増の課題

本学の大学院教育のボリュームゾーンは自然科学研究科（や新学術創成研究科）であるが，企業就職目的に博士前期課程に進学してくる学生が大半を占めている。学類の 2・3 年次に博士進学を動機づける機会設定が必要である。例えば，薬学類では，1 年次における博士進学者による講話に留まらず，2・3 年次におけるキャリア形成科目を学士課程教育のカリキュラムに組み込んでいる。このような事例を参照すべきである。

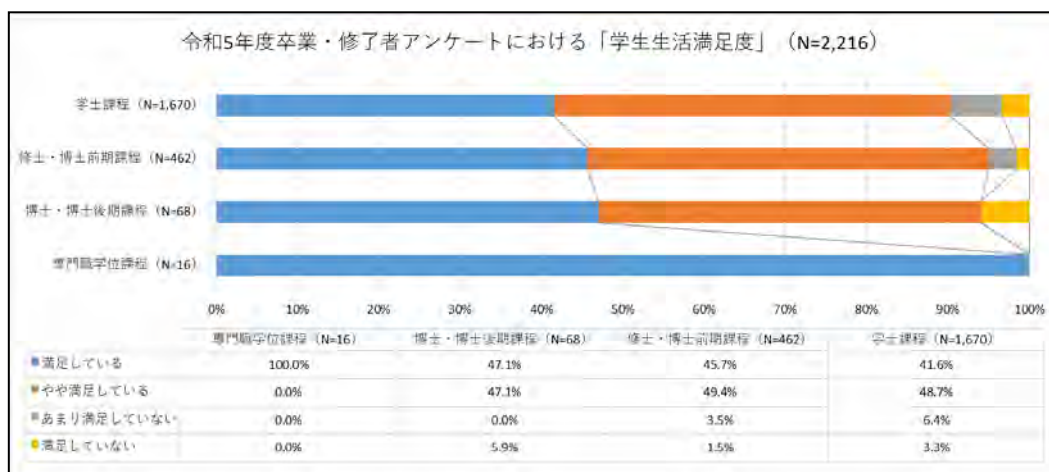
3. 卒業・修了者アンケートの結果概要

令和5年度卒業・修了者アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。学士課程・大学院課程ともに、回答率の改善が見られる。今後も、この傾向を続け、回答率の更なる向上に努める必要がある。

令和5年度卒業・修了者アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考)令和4年度回答率
【学士課程】		
人間社会学域	73.9%	53.9%
理工学域	65.7%	48.2%
医薬保健学域	68.4%	78.3%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	67.4%	50.0%
自然科学研究科	58.4%	38.4%
医薬保健学総合研究科	71.6%	81.4%
新学術創成研究科	42.9%	88.9%
法学研究科	100.0%	100.0%
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	100.0%	55.6%
自然科学研究科	20.0%	3.7%
医薬保健学総合研究科	81.6%	71.2%
先進予防医学研究科	50.0%	—
新学術創成研究科	40.0%	66.7%
【専門職学位課程】		
法学研究科	66.7%	—
教職実践研究科	100.0%	100.0%

令和3年度から全学共通で4件法で設問している「学生生活満足度」の回答結果について、前年度同様、どの教育課程においても、概ね満足度が高い結果となっている。



図表Ⅲ-3 令和5年度「卒業・修了者アンケート」結果概要

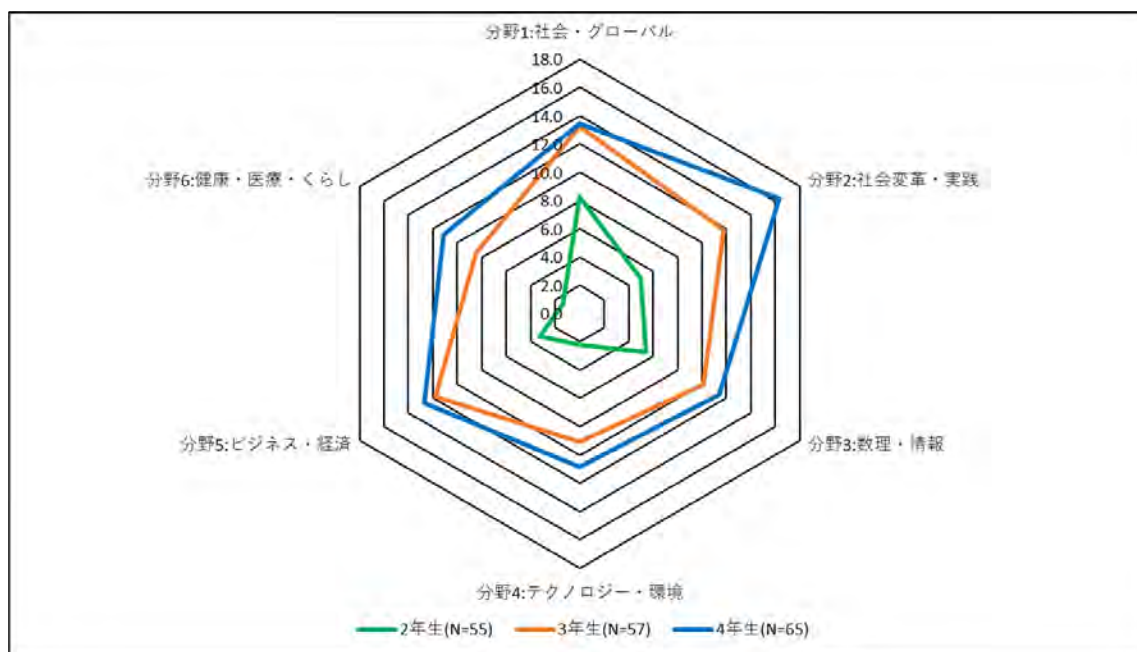
4. 「学びの計画書」を通じた DP 達成度可視化の整備

令和5年度から融合学域「学びの計画書」の新システム運用が進み、DP（ディプロマ・ポリシー）達成度可視化のほか、履修分野別の修得状況など一覧にて可視化するダッシュボード環境、さらには、就職活動等において、学生が自分自身の学修成果を説明するエビデンスとして活用する環境が整った。図表Ⅲ-5のように、カリキュラム検証にも活用している。

今後は、令和7年度以降において、融合学域での「学びの計画書」の運用実績を踏まえながら、全学での学修ポートフォリオの改善充実に活かしていくこととしている。



図表Ⅲ-4 システム整備した「学びの計画書」に関するイメージ画面



図表Ⅲ-5 融合学域先導学類生（2年生～4年生）の履修分野別の修得単位数平均の推移（令和6年度Q3現在）（「学びの計画書」を活用したカリキュラム検証の一例）

IV. 授業科目レベル

IV 授業科目レベル

金沢大学では、授業科目レベルの基本となるシラバスの改善充実を徹底するとともに、授業評価アンケート結果に基づく授業改善及びカリキュラム改善のためのFD活動を習慣化している。令和3年度には、授業評価アンケートシステムの大幅な刷新を行い、教学マネジメントセンターにおいて回答結果を集計・分析しつつ、学域・研究科にフィードバックする教学マネジメントサイクルの構築している。

1. 授業評価アンケートの結果概要

1.1 令和5年度授業評価アンケート回答率

令和5年度授業評価アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。令和4年度より新システムによる授業評価アンケートを実施しており、全体的に回答率が大幅に改善されている。特に、令和5年度においては、大学院課程での回答率に改善が見られる。

令和5年度授業評価アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考) 令和4年度回答率
【学士課程】		
共通教育	98.6%	99.1%
融合学域	98.0%	98.4%
人間社会学域	97.1%	85.9%
理工学域	73.0%	65.5%
医薬保健学域	88.4%	78.3%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	76.4%	87.7%
自然科学研究科	53.6%	47.2%
医薬保健学総合研究科	85.2%	76.6%
新学術創成研究科	93.0%	27.3%
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	60.6%	72.7%
医薬保健学総合研究科	52.9%	35.3%
先進予防医学研究科	32.1%	30.8%
新学術創成研究科	71.4%	20.0%
【専門職学位課程】		
法学研究科	47.5%	63.5%
教職実践研究科	100.0%	100.0%

1.2 令和5年度授業評価アンケート共通設問結果概要

令和3年度内に整備し、令和4年度から開始した新・授業評価アンケートシステムによる共通設問6項目（①授業内容の適切性、②担当教員の説明の仕方、③授業外学修時間、④授業理解度、⑤学修目標達成度、⑥授業満足度）に関する回答結果の概要が以下のとおりである。共通設問化により、経年比較だけでなく、部局間比較が可能となり、授業科目レベルでの教学マネジメントに役立っている。

(学士課程)

学域名	課程区分	学類名	回答数	回答率	① 授業内容の適切性 (-50～50の101段階 のスコア平均)	② 担当教員の説明の仕方 (-50～50の101段階 のスコア平均)	③ 授業外学修時間 (授業1回あたりの 時間数平均)	④ 授業理解度 (-50～50の101段階 のスコア平均)	⑤ 学修目標達成度 (-50～50の101段階 のスコア平均)	⑥ 授業満足度 (-50～50の101段階 のスコア平均)
共通教育	学士		71,698	99.1%	31.6	28.2	3.4	27.1	26.7	27.5
総合学域	学士	先端学類	3,694	97.7%	21.8	19.7	3.2	19.1	19.1	18.5
		観光デザイン学類	865	100.0%	31.2	30.5	1.6	29.2	29.4	30.3
		スマート創成科学類	146	94.8%	36.7	36.1	2.9	34.8	31.4	32.8
		計	4,705	98.0%	24.0	22.2	2.9	21.5	21.4	21.1
人間社会学域	学士	人文学類	5,744	94.9%	29.2	28.8	2.9	26.9	26.5	28.7
		法学類	7,400	97.5%	24.4	21.7	4.1	19.6	19.3	21.1
		経済学類	5,249	96.9%	22.8	20.6	4.2	19.0	18.8	20.2
		学校教育学類共同教員養成課程	4,720	98.6%	28.0	26.0	1.7	26.8	26.7	25.0
		学校教育学類	1,236	99.4%	27.6	26.8	5.1	25.9	25.2	26.0
		地域創造学類	3,149	97.9%	27.2	25.3	2.9	24.5	24.3	24.9
		国際学類	3,104	96.5%	30.9	28.8	3.6	28.0	27.7	28.7
		計	30,602	97.1%	26.7	24.8	3.3	23.6	23.3	24.4
理工学域	学士	数物科学類	3,676	75.1%	25.6	23.7	4.2	22.0	22.0	23.2
		物質化学類	4,265	67.5%	27.1	23.4	4.0	21.2	21.8	22.3
		機械工学類	5,391	67.4%	22.8	20.1	3.2	18.4	18.0	18.7
		フロンティア工学類	5,957	72.9%	22.6	19.9	2.7	19.2	19.3	19.5
		電子情報通信学類	5,051	75.0%	26.8	22.4	3.5	21.2	22.0	21.8
		地球社会基盤学類	5,937	75.8%	24.8	22.5	2.3	21.4	21.7	22.0
		生命理工学類	3,067	81.1%	27.5	25.7	2.5	24.0	22.9	25.4
		教職・資格(科目管理用)	1,184	76.3%	23.8	21.9	3.2	21.6	21.2	20.5
		計	34,528	73.0%	25.0	22.2	3.1	20.8	20.9	21.4
医療保健学域	学士	医学類	4,839	73.2%	27.8	26.4	3.2	24.4	23.7	25.5
		薬学類	10,690	94.9%	32.2	29.8	3.8	29.1	29.0	29.9
		医薬科学類	2,750	95.6%	29.5	26.8	3.3	25.0	25.1	26.0
		保健学類	749	96.3%	27.1	24.3	5.4	23.3	22.7	25.0
		計	19,028	88.4%	30.5	28.3	3.7	27.1	26.8	28.0

(大学院課程)

学域名	課程区分	学類名	回答数	回答率	①授業内容の適切性 (-50~50の101段階 のスコア平均)	②担当教員の説明の仕方 (-50~50の101段階 のスコア平均)	③授業外学習時間 (授業1回あたりの 時間数平均)	④授業理解度 (-50~50の101段階 のスコア平均)	⑤学習目標達成度 (-50~50の101段階 のスコア平均)	⑥授業満足度 (-50~50の101段階 のスコア平均)
人間社会福祉研究科	博士前期	人文学専攻	127	74.7%	38.3	37.1	7.0	34.8	34.5	36.5
		経済学専攻	11	68.8%	38.7	38.0	1.5	34.5	34.8	38.2
		国際学専攻	27	90.0%	47.6	46.1	8.1	43.3	42.4	45.4
		計	165	76.4%	39.8	38.6	6.9	36.1	35.8	38.1
人間社会福祉研究科	博士後期	人間社会福祉学専攻	20	60.6%	30.2	24.8	7.4	26.7	26.8	23.2
自然科学研究科	博士前期	動物科学専攻	938	50.5%	26.0	25.2	4.4	21.4	22.0	21.8
		物質化学専攻	1,105	57.9%	24.1	21.2	4.9	20.1	20.9	20.0
		機械科学専攻	1,134	56.7%	31.0	29.2	4.3	25.6	25.1	27.6
		フロンティア工学専攻	2,115	46.4%	24.2	21.9	3.4	19.1	18.5	18.6
		電子情報通信工学専攻	1,006	57.5%	33.3	30.6	4.2	29.1	29.5	30.7
		地球社会基盤学専攻	901	60.9%	24.1	20.9	3.7	20.9	21.2	21.4
		生命理工学専攻	602	59.8%	30.4	27.9	3.1	27.4	27.1	27.7
		計	7,801	53.6%	27.0	24.7	4.0	22.6	22.6	23.1
医薬保健学総合研究科	博士	医科学専攻	149	76.8%	40.0	36.9	1.7	37.8	37.3	37.8
医薬保健学総合研究科	博士前期	創薬科学専攻	333	89.5%	28.9	27.1	2.2	25.9	25.1	26.1
	博士後期	創薬科学専攻	9	52.9%	38.9	38.9	9.4	39.0	36.7	38.9
医薬保健学総合研究科	博士	医学専攻	54	15.8%	24.2	22.4	4.1	21.7	23.7	23.7
	博士	薬学専攻	13	86.7%	23.6	25.3	14.1	23.8	23.0	28.4
		計	67	18.8%	24.1	23.0	6.3	22.1	23.5	24.6
先端学術医学研究科	博士	先端学術医学共同専攻	18	32.1%	46.0	43.2	8.3	41.7	42.6	40.5
新学術創成研究科	博士前期	融合科学共同専攻	56	96.6%	39.3	32.4	2.4	30.2	29.7	31.9
		ナノ生命科学専攻	64	90.1%	38.4	36.2	5.2	31.3	34.4	33.8
		計	120	93.0%	38.8	34.4	3.9	30.8	32.2	32.9
	博士後期	ナノ生命科学専攻	5	71.4%	36.0	34.0	2.8	38.0	36.0	37.2

1.3 共通教育科目 GS 科目 1～6 群の回答結果比較

令和 3 年度から共通教育 GS 科目に新たに 6 群が加わり、1 群から 6 群における共通設問「①授業内容の適切性」「②担当教員の説明の仕方」「③授業外学修時間」「④授業理解度」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」の 6 項目について比較を行った。「①授業内容の適切性」「②担当教員の説明の仕方」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」について、2 群の科目が他群に比べ、平均スコアが高い。また、「③授業外学修時間」「④授業理解度」について、5 群の科目が他群に比べ、平均スコアが高い。

2023年度		回答数	回答率	①授業内容の適切性	②担当教員の説明の仕方	③授業外学修時間	④授業理解度	⑤学修目標達成度	⑥授業満足度
				(-50～50の101段階 のスコア平均)	(-50～50の101段階 のスコア平均)	(授業1回あたり の時間数平均)	(-50～50の101段階 のスコア平均)	(-50～50の101段階 のスコア平均)	(-50～50の101段階 のスコア平均)
共通教育 GS科目	1群	4,575	98.2%	30.1	26.3	3.4	24.3	24.7	25.5
	2群	6,657	97.9%	33.3	31.1	3.4	29.2	28.7	30.9
	3群	4,545	98.6%	31.7	30.3	2.8	28.4	27.7	29.7
	4群	5,053	97.8%	30.1	28.2	3.6	26.7	26.1	27.1
	5群	5,296	98.3%	32.9	31.0	3.7	29.4	28.4	29.5
	6群	6,220	98.6%	30.0	26.0	3.0	24.5	24.8	25.7

図表IV-1 令和 5 年度授業評価アンケート結果概要

V. 文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）
に関する意識調査

V 文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）に関する意識調査結果（学生・教員対象）

1. 趣旨・回答概要・要点

【趣旨】

令和 2 年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」を通して、「①融合学域における文理融合型学位プログラムの設置」「②全学域学生を対象とした先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）の開発」「③共通教育科目 GS 科目 6 群の設置や学域 GS 科目の拡充」に取り組み、新しい大学教育モデルを学内外に提供すべく、文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）の全学展開を進めてきました。

令和 4 年度に、文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）に関する学生・教員向けアンケートを実施しましたが、その後の学内における認知度・理解度や教育効果を把握するため、DP 事業最終年度にあたり、学生・教員向けアンケートを改めて実施いたします。

今年度実施のアンケート調査結果については、令和 4 年度調査結果と比較しながら、DP 事業で進めてきた文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）の効果検証に活用します。

【回答対象者】

すべての学域学生（正規学生）

すべての専任教員（特任教員を含む）

【回答者数】

学生版アンケート・・・352 名（4.4%）（前回（令和 4 年度）：473 名（6.1%））

教員版アンケート・・・235 名（18.0%）（前回（令和 4 年度）：177 名（14.2%））

【実施期間】

令和 6 年 11 月 28 日（木）～令和 7 年 1 月 27 日（月）

【実施方法】

Microsoft Forms を通じたアンケート実施（無記名）

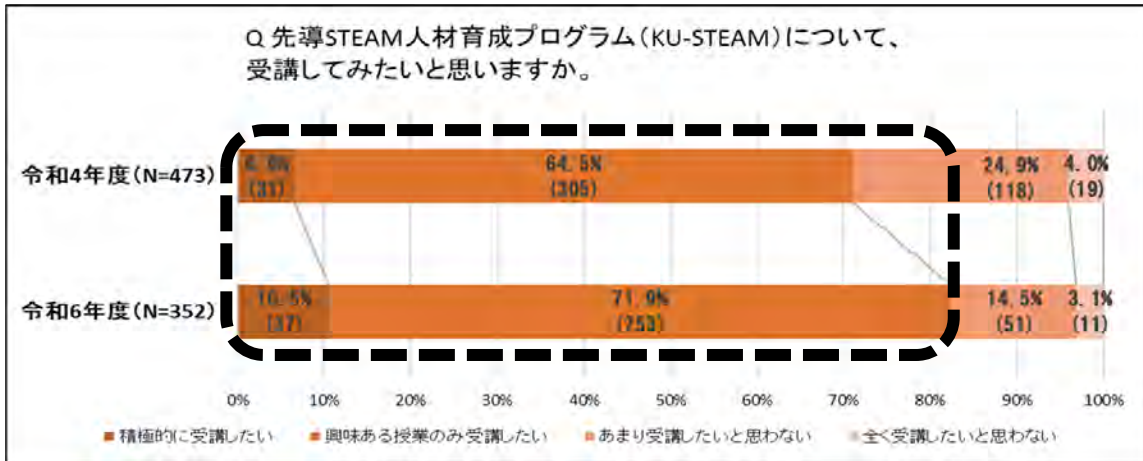
【要点】

令和 4 年度調査と令和 6 年度調査を比較すると、本事業取組を通して、文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）への理解や具体的な関わりの広がりが全般的に見られる。特に、学生の関心度合が確実に向上していることが分かる。

以下に、学生と教員の意識変容の度合を表す経年比較を示しておく。

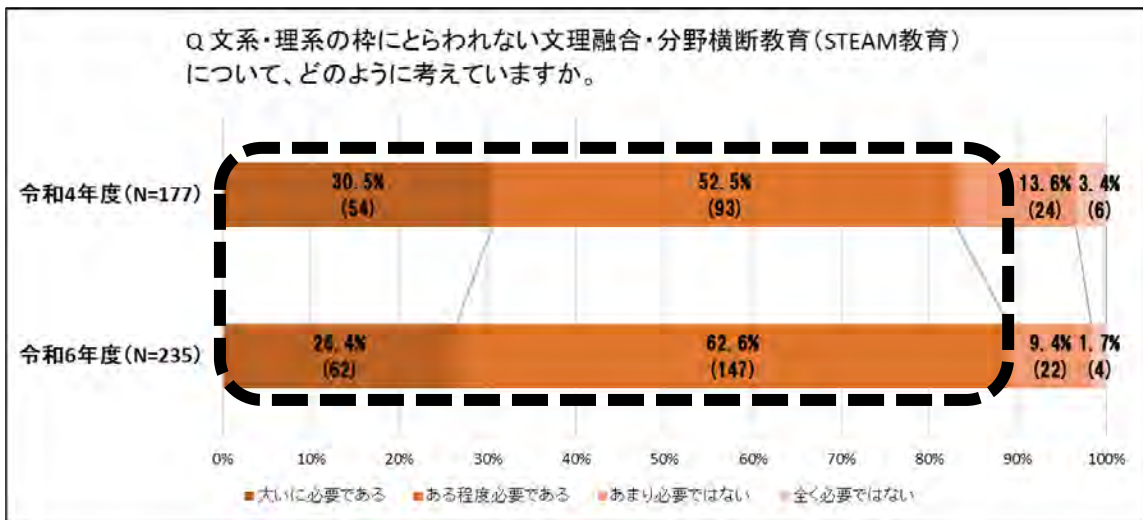
①学生の意識変容

学士課程の全学生を対象とした設問 11「先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）について、受講してみたいと思いますか」では、令和 4 年度から令和 6 年度にかけて、「積極的に受講」「興味ある授業を受講」の割合が「71.1%」から「82.4%」に増加し、先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）の受講意欲が大きく伸びている。学生の同プログラムに関する認知度の向上とともに、STEAM 教育への関心度合の向上が見られる。



②教員の意識変容

本学専任教員を対象とした設問「文系・理系に枠にとらわれない文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) について、どのように考えていますか」では、令和4年度から令和6年度にかけて、「大いに必要」「ある程度必要」の割合が「83.0%」から「89.0%」に増加し、学びに貢献する教員側の意識が確実に向上している。



図表 V-1 令和6年度文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) に関する意識調査結果の要点

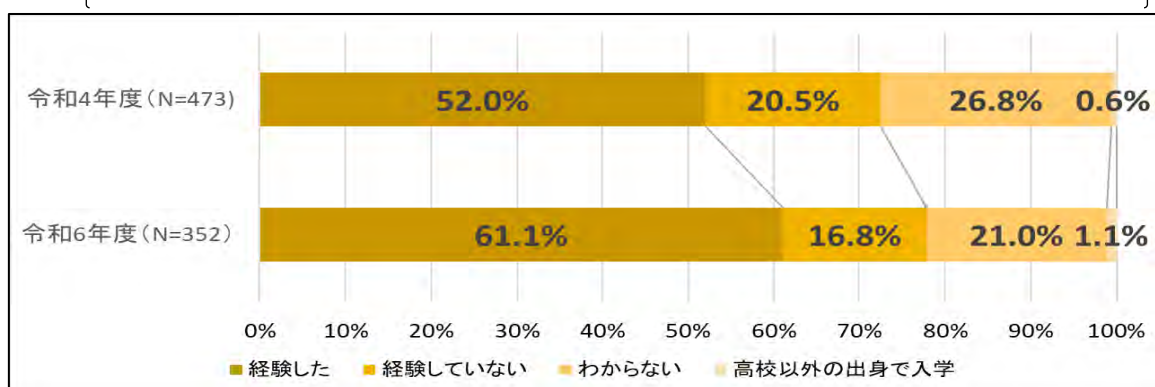
2. 意識調査（学生版）結果概要
（令和4年度調査との比較を中心に）

Q1 所属, Q2 学年

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
融合学域	26	13	6	5			50
人間社会学域	80	33	31	18			162
理工学域	32	17	9	10			68
医薬保健学域	43	13	5	2		1	64
総合教育部・文系	7						7
総合教育部・理系	1						1
総計	189	76	51	35		1	352

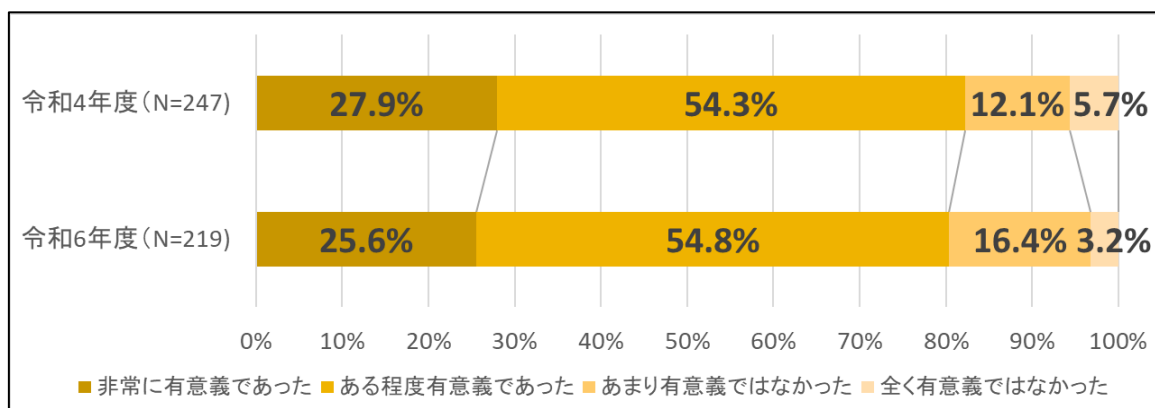
Q3 高校在学中に探究学習を経験しましたか。該当するものを一つだけ選んでください。

〔 ①経験した ②経験していない ③わからない ④高校以外の出身で入学 〕



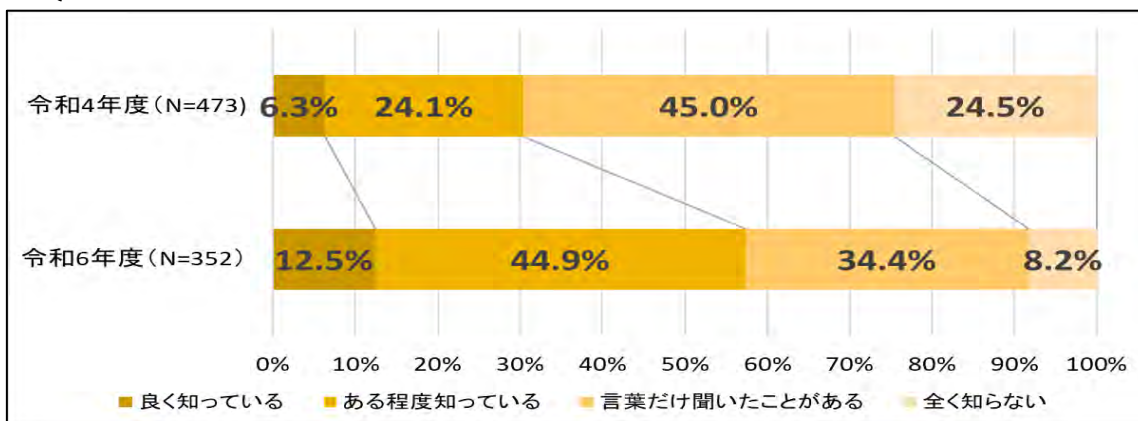
Q4 設問3で、「① 経験した」を選ばれた方のみにお聞きします。高校在学中の探究学習は有意義でしたか。該当するものを一つだけ選んでください。

〔 ①非常に有意義であった ②ある程度有意義であった
③あまり有意義ではなかった ④全く有意義ではなかった 〕



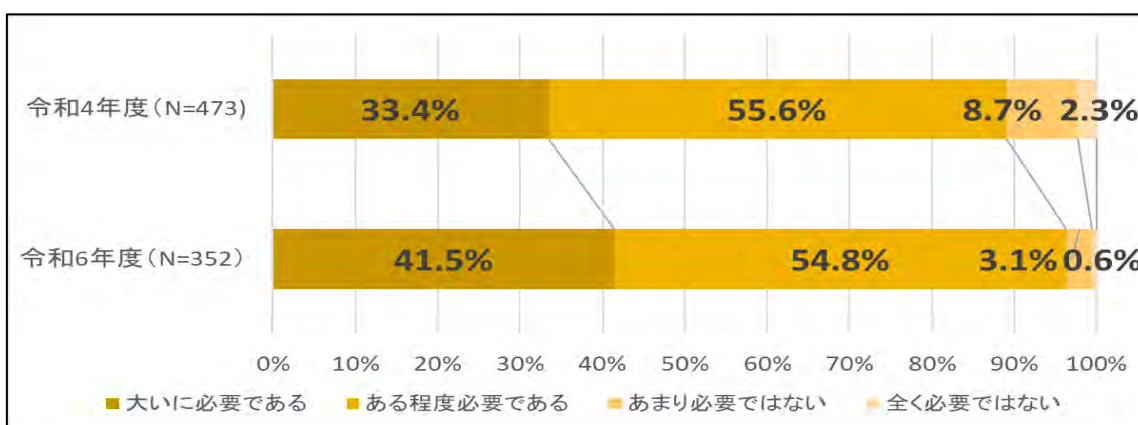
Q6 STEAM 教育という言葉を知っていますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①良く知っている ②ある程度知っている
 ③言葉だけ聞いたことがある ④全く知らない



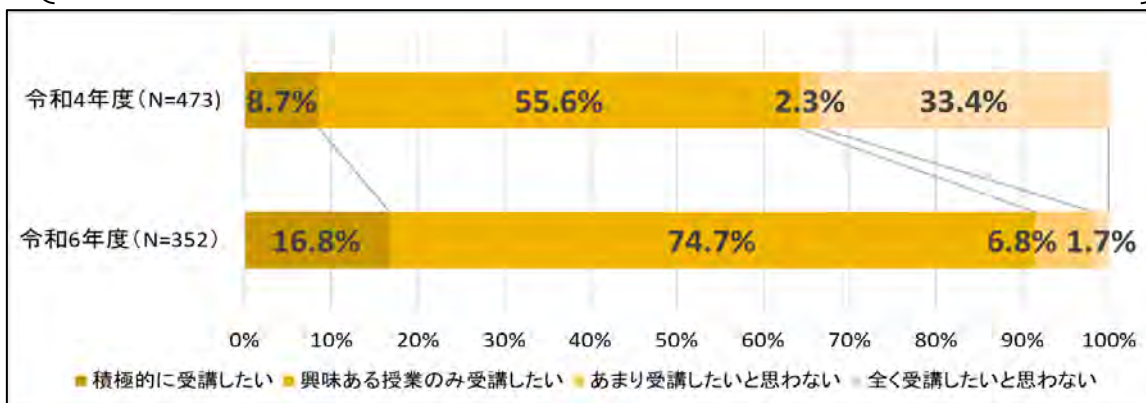
Q7 文系・理系の枠にとらわれない文理融合・分野横断教育 (STEAM 教育) について、どのように考えていますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①大いに必要である ②ある程度必要である
 ③あまり必要ではない ④全く必要ではない



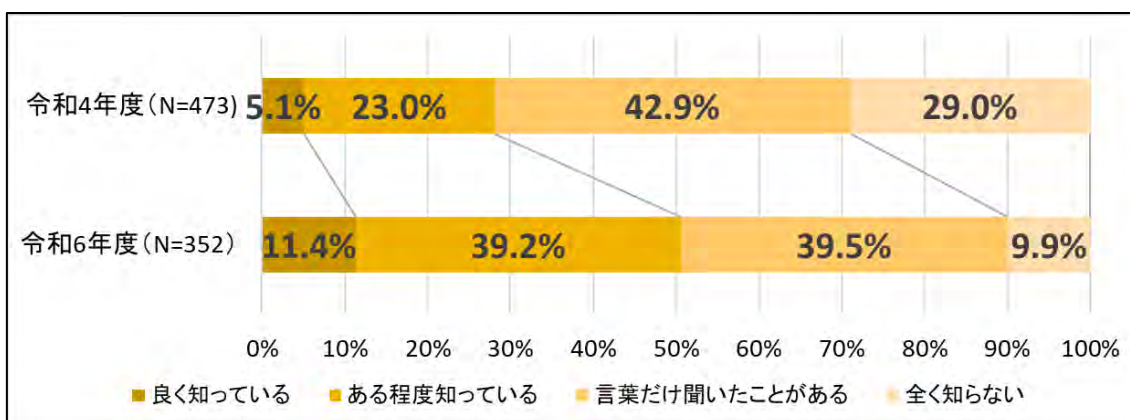
Q9 所属学域・学類以外の他分野の専門教育科目（副専攻制度）を受講してみたいと思いますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①積極的に受講したい ②興味ある授業のみ受講したい
 ③あまり受講したいと思わない ④全く受講したいと思わない



Q10 全学域生対象に開講している先導STEAM人材育成プログラム(通称:KU-STEAM)について、知っていますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①良く知っている ②ある程度知っている
 ③言葉だけ聞いたことがある ④全く知らない

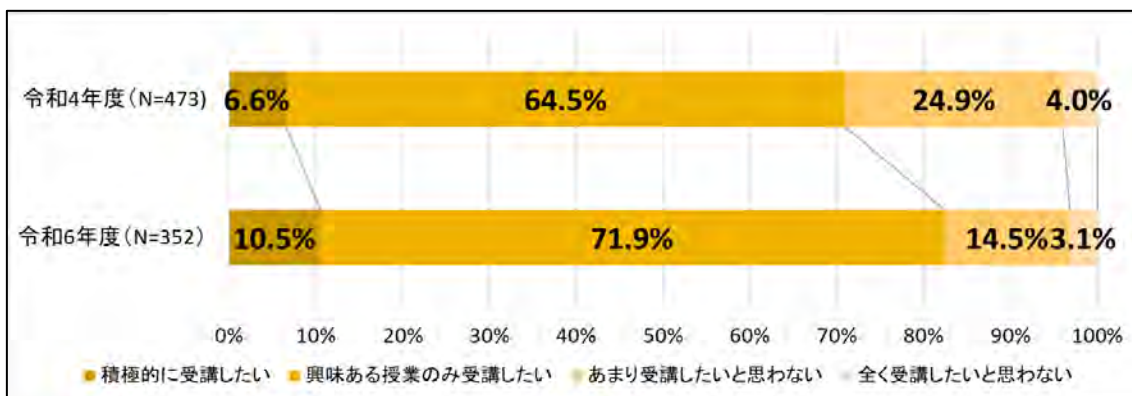


Q11 先導 STEAM 人材育成プログラム（通称：KU-STEAM）について、受講してみたいと思いますか。該当するものを一つだけ選んでください。

【先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）履修ガイドブック】

<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/assets/img/about/steam/ku-steam-guidebook.pdf>

- ①積極的に受講したい
- ②興味ある授業のみ受講したい
- ③あまり受講したいと思わない
- ④全く受講したいと思わない

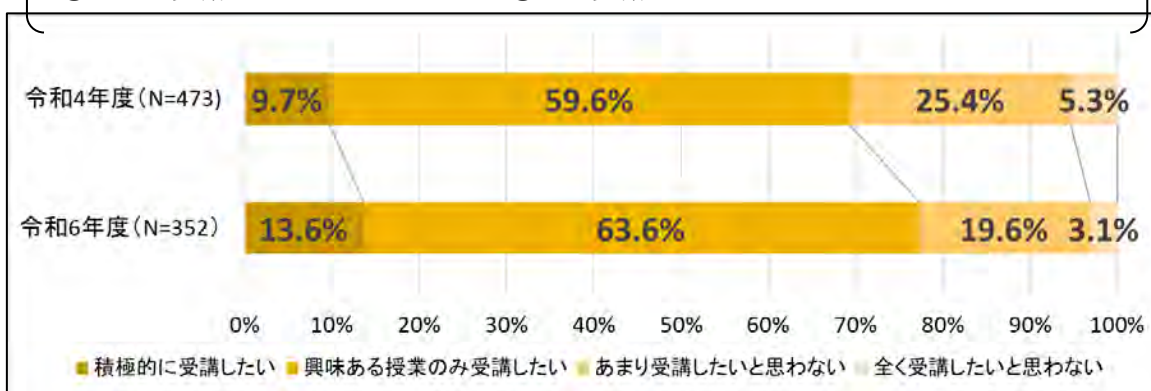


Q12 先導 STEAM 人材育成プログラム（通称：KU-STEAM）では、企業・自治体等と共に実社会の課題解決に取り組む課題解決学習型授業（PBL）の実践演習や実践インターンシップを開講していますが、受講してみたいと思いますか。該当するものを一つだけ選んでください。

【先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）履修ガイドブック】

<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/assets/img/about/steam/ku-steam-guidebook.pdf>

- ①積極的に受講したい
- ②興味ある授業のみ受講したい
- ③あまり受講したいと思わない
- ④全く受講したいと思わない



図表 V-2 令和 6 年度文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）に関する意識調査（学生版）結果概要

3. 意識調査（教員版）結果概要
（令和4年度調査との比較を中心に）

Q1 所属

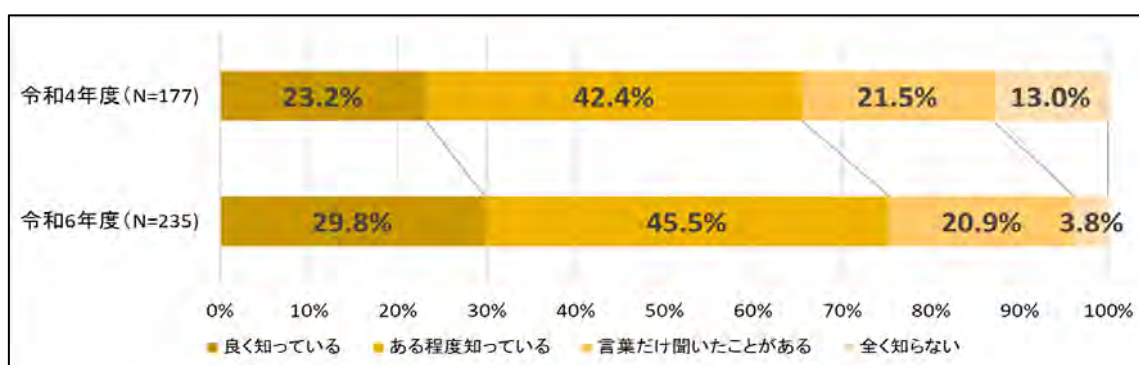
Q2 金沢大学での教育経験年数

- 1 2年未満 2 2年～5年未満 3 5年～10年未満
 4 10年～15年未満 5 15年以上

	2年未満	2年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年以上	総計
融合研究域	2	3		1	5	11
人間社会研究域	2	2	11	8	30	53
理工研究域	3	4	14	10	29	60
医薬保健研究域	2	1	9	7	28	47
国際基幹教育院	5	4	12		5	26
附属病院		1	2		3	6
附置研究所、機構、センター等	7	4	2	1	18	32
総計	21	19	50	27	118	235

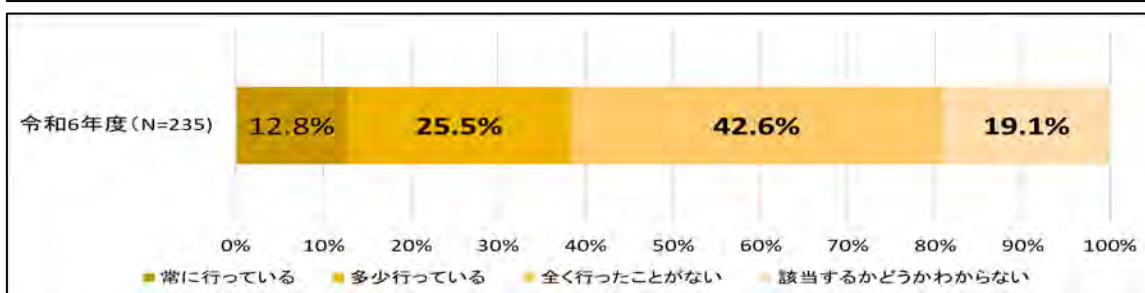
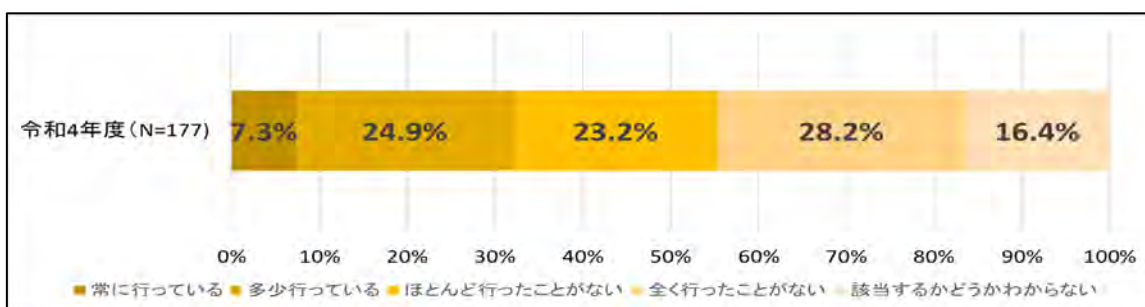
Q3 STEAM教育という言葉を知っていますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①良く知っている ②ある程度知っている
 ③言葉だけ聞いたことがある ④全く知らない



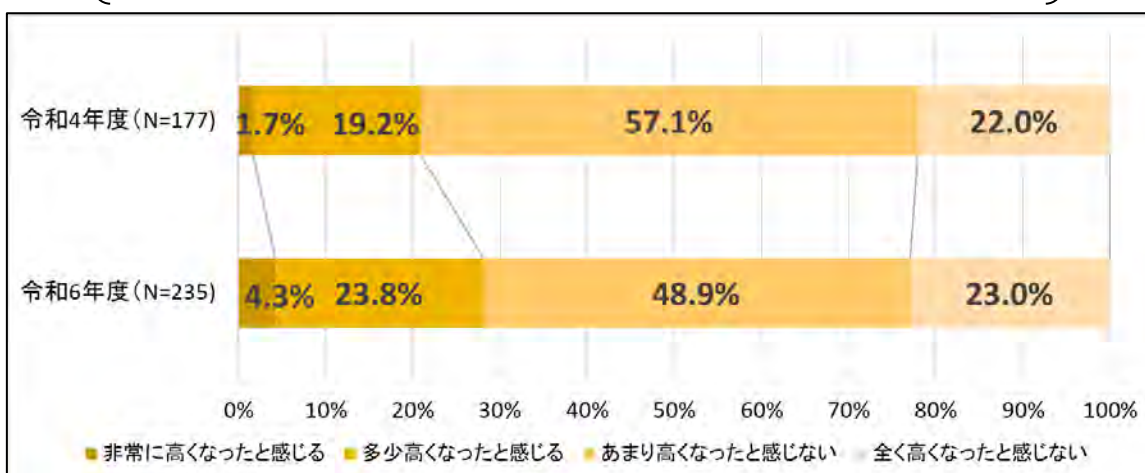
Q4 これまでに、文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）に相当する授業を行ったことがありますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①常に行っている ②多少行っている
 ③ほとんど行ったことがない ④全く行ったことがない
 ⑤該当するかどうかわからない



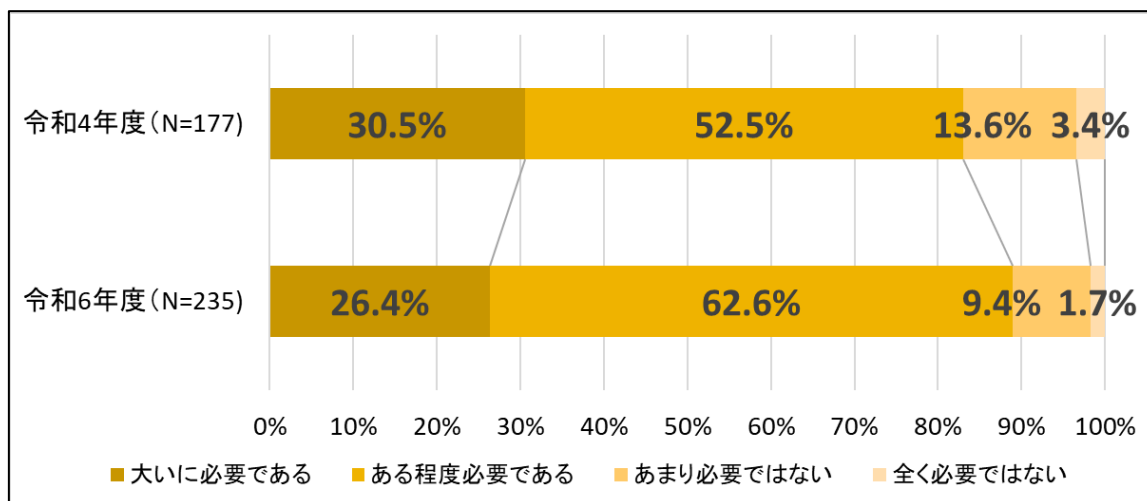
Q5 近年、入学してくる大学生は、高校在学時に探究学習を経験するようになってきました。本学入学後の大学生の探究する力が高くなったと感じますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①非常に高くなったと感じる ②多少高くなったと感じる
 ③あまり高くなったと感じない ④全く高くなったと感じない



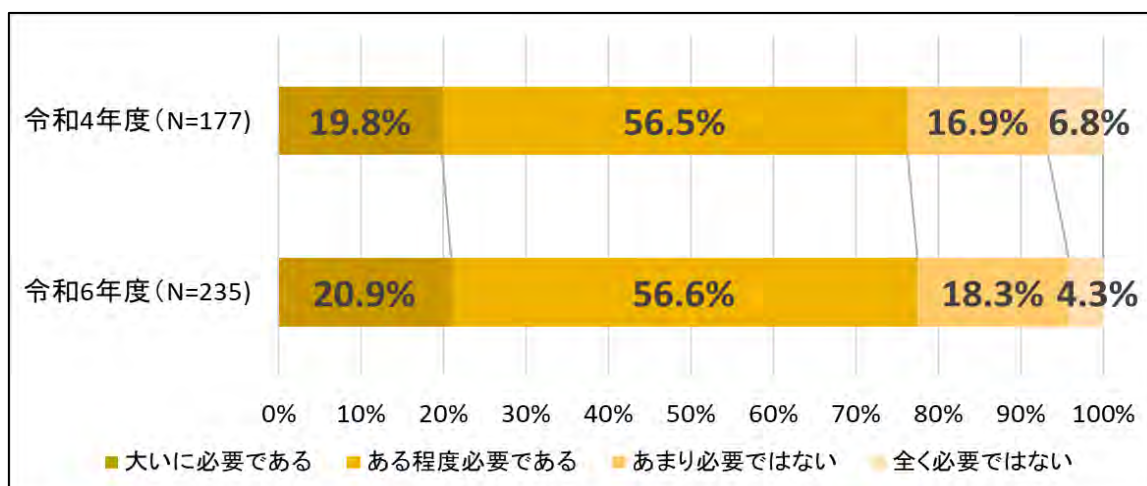
Q6 文系・理系の枠にとらわれない文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）について、どのように考えていますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①大いに必要である ②ある程度必要である
③あまり必要ではない ④全く必要ではない



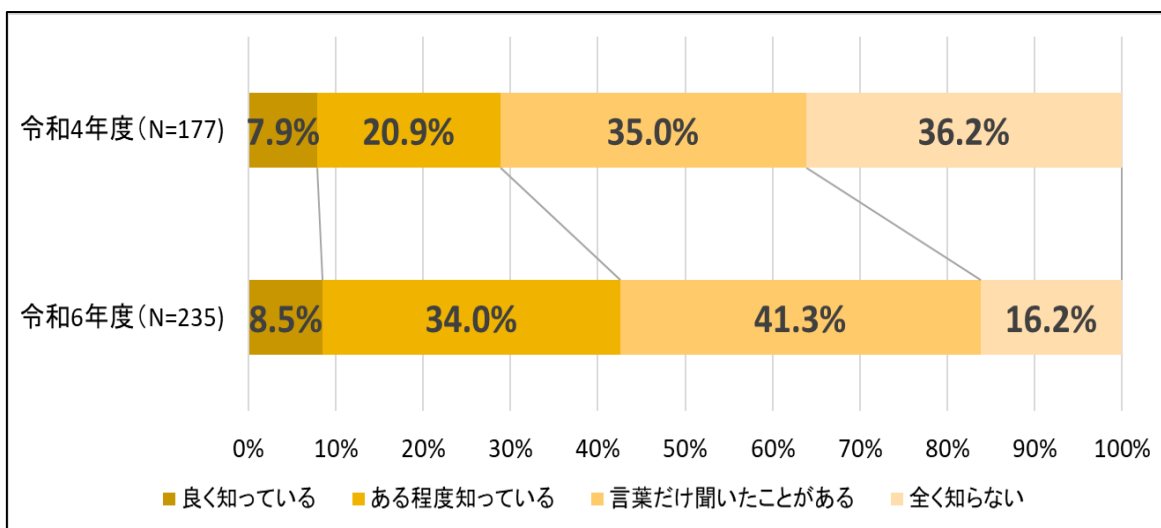
Q8 所属学域・学類以外の他分野の専門教育科目を受講できる副専攻制度について、どのように考えていますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①大いに必要である ②ある程度必要である
③あまり必要ではない ④全く必要ではない



Q9 全学域生を対象として開講している先導 STEAM 人材育成プログラム（通称：KU-STEAM）について、知っていますか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ①良く知っている
- ②ある程度知っている
- ③言葉だけ聞いたことがある
- ④全く知らない

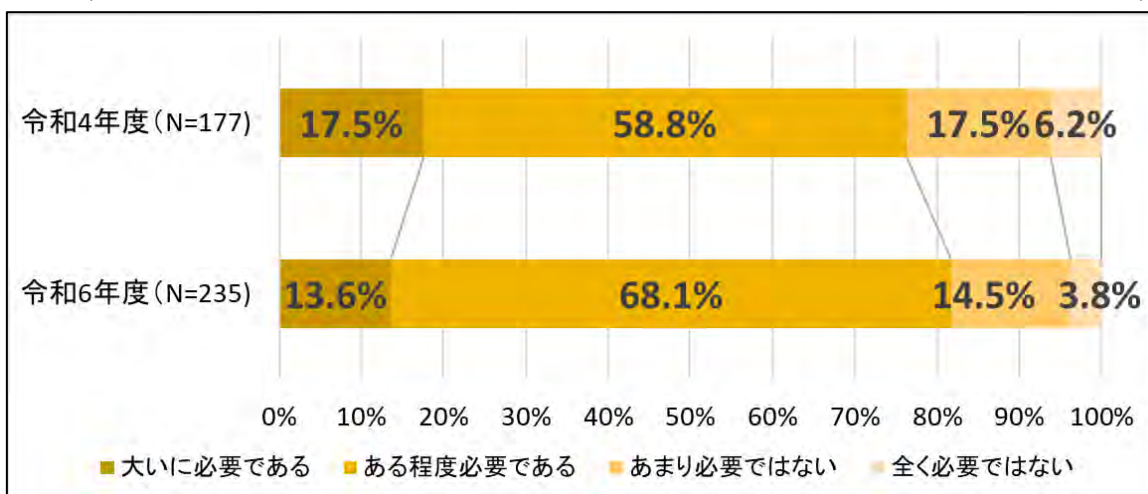


Q10 先導 STEAM 人材育成プログラム（通称：KU-STEAM）について、どのように感じますか。該当するものを一つだけ選んでください。

【先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）履修ガイドブック】

<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/assets/img/about/steam/ku-steam-guidebook.pdf>

- ①大いに必要である
- ②ある程度必要である
- ③あまり必要ではない
- ④全く必要ではない

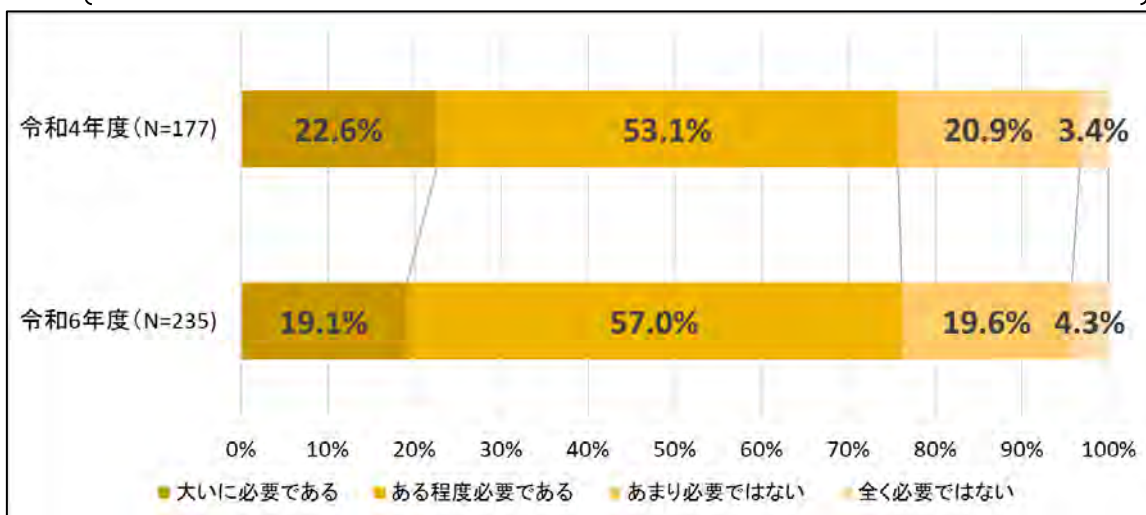


Q12 先導 STEAM 人材育成プログラム（通称：KU-STEAM）では，企業・自治体等と共に実社会の課題解決に取り組む課題解決学習型授業（PBL）や実践インターンシップを開講していますが，どのように感じますか。該当するものを一つだけ選んでください。

【先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）履修ガイドブック】

<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/assets/img/about/steam/ku-steam-guidebook.pdf>

- | | |
|------------|------------|
| ①大いに必要である | ②ある程度必要である |
| ③あまり必要ではない | ④全く必要ではない |



図表 V-3 令和6年度文理融合・分野横断教育（STEAM 教育）に関する意識調査（教員版）結果概要

VI. 参考資料（『教学マネジメント指針』
（中央教育審議会大学分科会）別紙 2・3）

「Ⅲ 学修成果・教育成果の把握・可視化」
関係

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の
達成状況を明らかにするための
学修成果・教育成果に関する情報について

別紙2

- ・以下の表に掲げる情報は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするためのエビデンスとして使用可能な、学修成果・教育成果に関する情報である。
- ・これらの情報について、「卒業認定・学位授与の方針」の各項目にひも付けて整理し、分かりやすい形でまとめなおすことが考えられる（別紙1参照）。
- ・これらの情報や学生の学修履歴・活動履歴を体系的に蓄積・収集し、大学のみならず一人一人の学生が様々な形で自らが身に付けた資質・能力のエビデンスとして活用できるようにするためには、学修ポートフォリオの利用等が効果的に機能するものと考えられる。また、学修ポートフォリオに蓄積された学修成果・教育成果に関する情報をエビデンスとして用いて、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得状況を評価することも考えられる。
- ・なお、これらの情報は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報として考えられるものをあくまで例として示したものである。また、学位プログラムの内容やその学修目標により、これらの情報（特に（2）に分類されたもの）の収集の必要性・重要性は異なるものと考えられる。
- ・本表を参考としつつ、各大学の自主的・自律的な判断とその責任の下で、学位プログラムの内容やその学修目標に応じた学修成果・教育成果の把握・可視化や、そのために必要な情報の策定・開発が進められることが期待される。

（1）大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において学内で収集可能と考えられるものの例

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
各授業科目における到達目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて設定された個々の授業科目の到達目標をどの程度の水準で達成できているかを明らかにする ・学生が、個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を獲得してゆく過程を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が単位を修得した授業科目に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評定の分布状況 ・学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け ・個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 （これらを組み合わせて分析することで、学生が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力をどの程度満たしているかを一定程度説明することができる。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの収集 ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
学位の取得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、個々の授業科目の履修の結果として、「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が取得した学位に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・学位の名称、学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力及び当該学生が属する学位プログラムにおいて当該学位を取得するために要する平均年数 ・学生が学位取得に要した年数及び上記平均年数との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与履歴を収集
学生の成長実感・満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けられているか等に関する学生の主観的な評価を明らかにする ・大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価の平均値 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する個々の学生の主観的な評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生へのアンケート調査を通じた収集

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法									
進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）	<ul style="list-style-type: none"> ・大学が、進学や就職等を希望する学生に対して進路を保証できているかを明らかにする ・大学が「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される人材育成を行っているか否かを、進学先の大学院や就職先の企業等における評価と対照することを通じて明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の進路（進学、就職等）に対する希望状況 ・学位プログラム修了者の進路（進学先や就職先等）及びその全体状況（修了者の総数を分母とする進路毎の割合等） ・特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある場合には、実際の進路動向との一致の程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 ・「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析 									
修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率	<ul style="list-style-type: none"> ・厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の資質・能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、在学者、退学者の数と割合（標準年限期間内に学位を取得していない者については、取得に至っていない原因毎の数と割合） ・ある学位プログラムにおいて学位を取得するために要する平均年数 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与履歴を収集 									
学修時間	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の時間及び平均時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が授業内外それぞれの学修に費やした時間の平均値（①）及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間数の平均値（②） ・個々の学生が授業内外それぞれの学修に費やした時間数（③）及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間（④） ・上記①及び②、①及び③並びに③及び④の比較 <p><参考></p> <table border="1" data-bbox="1341 1079 2050 1205"> <thead> <tr> <th></th> <th>全体</th> <th>個人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実測時間</td> <td>①（平均値）</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>想定時間</td> <td>②（平均値）</td> <td>④</td> </tr> </tbody> </table>		全体	個人	実測時間	①（平均値）	③	想定時間	②（平均値）	④	<ul style="list-style-type: none"> ・学生へのアンケート調査を通じた収集 （※）今後新たに調査・収集を行う大学においては、例えば以下のような手法での調査・収集が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・学修時間の集計単位：1時間単位での把握 ・集計期間の選定：試験直前期や長期休暇期間などを除く平均的な一週間における学修時間 （※）学修時間以外の生活時間の調査についても、学修成果・教育成果の把握・可視化の観点から併せて行うことも考えられる ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
	全体	個人										
実測時間	①（平均値）	③										
想定時間	②（平均値）	④										

(2) 教学マネジメントを行う上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
<p>「卒業認定・学位授与の方針」に定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができる授業科目における到達目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の科目により直接的に評価することができるものをどの程度の水準で備えているかを明らかにする ・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち左記の科目により直接的に評価することができるものを獲得してゆく過程を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が単位を修得した左記の授業科目に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評定の分布状況 ・ 学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け ・ 個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 ・ 左記の資質・能力の取得状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
<p>卒業論文・卒業研究の水準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた専門教育に係る資質・能力を総合的にどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにする ・ 専門教育に係る資質・能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生のような活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業論文・卒業研究に対する評定により直接的に測定することができる「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る資質・能力 ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評定の分布状況 ・ 個々の学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評定 ・ 卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生のような活動を通じて、「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る資質・能力以外の資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力の達成状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業論文・卒業研究の評価により明らかにすることができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力との関係の整理 ・ 卒業論文作成・卒業研究実施の成果物に対する指導教員等の評定（例えば、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力を中心として、これらに関連するルーブリック等を用いて評価したものなど） <p>(※成果物に対する評定に加え、卒業論文作成・卒業研究実施の過程に対し適切に評価することも重要。)</p>
<p>アセスメントテストの結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該アセスメントテストにより測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントテストにより測定することができる資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（アセスメントテストにより測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況 ・ 個々の学生のアセスメントテストの受験状況、その結果及び上記平均値との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるアセスメントテスト（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべきアセスメントテスト）の特定 ・ 大学として結果を把握すべきアセスメントテストを受験した学生からの報告による結果の収集 <p>(※「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を測定するためにアセスメントテストを利用する場合、大学は、当該テストの目的や測定方法が当該資質・能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。)</p>

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
語学力検定等の学外試験のスコア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該試験により測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外試験により測定することができる資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（学外試験により測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況 ・ 個々の学生の学外試験の受験状況、その結果及び上記平均値との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる学外試験（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき学外試験）の特定 ・ 大学として結果を把握すべき学外試験を受験した学生からの報告による結果の収集 （※「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を測定するために学外試験を利用する場合、大学は、当該試験の目的や測定方法が当該資質・能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。）
資格取得や受賞、表彰歴等の状況	<p>＜資格取得の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該資格の取得のために求められる資質・能力を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする ・ 当該資格の取得により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力の一部を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする <p>＜受賞、表彰歴等の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該受賞、表彰等のために求められる資質・能力を高い水準で身に付けることができていることを明らかにする ・ 当該受賞、表彰等により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる 	<p>＜資格取得の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格の取得により証明される資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（資格取得により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生における資格取得の状況 ・ 個々の学生の資格取得の状況 <p>＜受賞、表彰歴等の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受賞、表彰等により証明される資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（受賞、表彰等により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属する学生のそれぞれの受賞・表彰等の状況 ・ 個々の学生の受賞・表彰等の状況 	<p>＜資格取得の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特定 ・ 上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <p>＜受賞、表彰歴等の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受賞や表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる賞や表彰制度等の特定 ・ 上記の賞や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集
卒業生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学先の大学院や就職先の企業などにおける卒業生に対する評価を通じて、学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を身に付けているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力に照らした、実際の卒業生に対する雇用主や進学先の指導教員からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の雇用主や進学先の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集
卒業生からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位プログラムにおける学修や教育が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったかや、学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのように役立っているかを、進学・就職から一定期間経過した卒業生からの評価により明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生が、学位プログラムを通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を習得することができたか ・ 進学・就職等の進路毎に、どのような資質・能力が役立っているかについての、卒業生からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

- ・以下の表に掲げる情報は、大学における学修成果や教育成果、これらを保証する条件に関する情報として公表する意義があるものと考えられる情報であり、(1)「『卒業認定・学位授与の方針』に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例」と(2)「学修成果・教育成果を保証する条件に関する情報の例」の2項目について、それぞれ①「大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの」と②「教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報」に分類している。
- ・これらの情報は、公表が考えられるものをあくまで例として示したものである。また、学位プログラムの内容やその学修目標により、特に②の情報の収集・公表の必要性・重要性は異なるものと考えられる。
- ・これらの項目も参考としつつ、各大学の自主的・自律的な判断とその責任の下で情報公表が進められることが期待される。
- ・これらの情報のうち、特に(1)①に分類されるものについては、社会からその公表が強く期待されている学修成果・教育成果に係るものであることから、早期に情報公表が進められることが強く期待される。
- ・情報の公表に当たっては、利用者が適切に情報を取り扱うことができるようにする観点から、大学として理解を促進するための適切な分析や解説を、その根拠と併せて付するとともに、利用者の便宜に配慮した方法で行うことが求められる。
- ・以下、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)を「規則」、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)を「基準」とそれぞれ略記する。

(1) 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法	
①大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの	各授業科目における到達目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・同一の学位プログラムに属する学生の単位修得に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・入学年度別・年度毎の平均履修単位数(※) ・入学年度別・年度毎の平均修得単位数(※) (※) 必修科目、選択科目及び自由科目で細分化することも考えられる。 (学修時間や学事暦の柔軟化の状況、履修単位の登録上限設定の状況、GPAの活用状況と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：基準第32条 	・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集	
	学位の取得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えた学生が何人卒業しているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラムが授与した学位の名称と授与者の数 ・当該学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力 関連する法令等：規則第172条の2第1項第1号、第4号及び第6号 	・学位授与履歴を収集
	学生の成長実感・満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けられているか等に関する学生の主観的な評価について、全体的な状況を明らかにする ・大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価の年度毎の平均値及び分布その他の全体的な状況 	・学生へのアンケート調査を通じた収集

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）	<ul style="list-style-type: none"> ・進学や就職等を希望する学生の進路状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラム毎の以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・就職を希望した学生数を分母とする就職者の割合 ・学生の主な就職先 ・進学を希望した学生数を分母とする進学者の割合 ・学生の主な進学先 ・特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある学位プログラムにおいては、当該プログラムの卒業生数を分母とする当該進路への就職者の割合及び主な就職先 (卒業生に対する評価や卒業生からの評価と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：規則第172条の2第1項第4号 関連する調査等：「大学等卒業者の就職状況調査」 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 ・「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析
修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率	<ul style="list-style-type: none"> ・厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の資質・能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする ・履修単位の登録上限設定の状況やGPAの活用状況と組み合わせて分析することで、大学が、密度の高い学修を可能とする環境を提供していることや、厳格な成績評価に基づく質の高い教育を提供していることを示すことができる重要な情報の一つとなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、在学者、退学者の数と割合（公表の際には、単にこれらの情報のみを公表するのではなく、学位プログラムのカリキュラムの在り方や、履修単位の登録上限設定の状況、GPAの活用状況、留学の位置づけといった修業期間・成績評価に関連する情報や、積極的な進路変更（他大学への転学や他学部への転部など）の有無、退学の理由（大学に起因するものと大学に起因しないものの別など）も踏まえた分析を付することが望ましい。） 関連する法令等：規則第172条の2第1項第4号 関連する調査等：「学校基本調査」 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務履歴や学校基本調査の調査過程において収集
学修時間	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の平均時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が、当該学位プログラムに関連する授業内外それぞれの学修に費やした時間の平均値及び分布その他の全体的な状況 (各授業科目における到達目標の達成状況や履修単位の登録上限設定の状況と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：基準第21条 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生へのアンケート調査を通じた収集 (※) 今後新たに調査・収集を行う大学においては、例えば以下のような手法での調査・収集が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・学修時間の集計単位：1時間単位での把握 ・集計期間の選定：試験直前期や長期休暇期間などを除く平均的な一週間における学修時間 (※) 学修時間以外の生活時間の調査についても、学修成果・教育成果の把握・可視化の観点から併せて行うことも考えられる ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
② 教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報	<p>「卒業認定・学位授与の方針」に定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができる授業科目における到達目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 左記の授業科目の科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準及び成績評価手法 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の授業科目により直接的に測定することができるものの達成状況に関する全体的な状況 	<ul style="list-style-type: none"> 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
卒業論文・卒業研究の水準	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、学位プログラムが提供する教育の集大成として、どのようなテーマの卒業論文作成・卒業研究実施に取り組んでいるかを明らかにする 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた専門教育に係る資質・能力を総合的にどの程度の水準で身に付けることができているかについて、全体的な状況を明らかにする 専門教育に係る資質・能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文・卒業研究に取り組んでいる学生の人数と割合 卒業論文・卒業研究の代表的なテーマ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の卒業論文・卒業研究に対する評価基準（専門教育に係る資質・能力やその他の資質・能力に対する基準を含む） 卒業論文・卒業研究に対する評価の平均値及び分布その他の全体の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学内調査による代表的なテーマの収集 卒業論文・卒業研究の評価により明らかにすることができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力との関係の整理 卒業論文作成・卒業研究実施の成果物に対する指導教員等の評価基準・評価手法の収集
アセスメントテストの結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、当該アセスメントテストにより測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得できているかについて、全体的な状況を明らかにする 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができるかについて、全体的な状況を明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（アセスメントテストにより測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、等） 同一の学位プログラムに属する学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況その他の全体的な状況 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるアセスメントテスト（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべきアセスメントテスト）の特定 大学として結果を把握すべきアセスメントテストを受験した学生からの報告による結果の収集
語学力検定等の学外試験のスコア	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、当該試験により測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得できているかについて、全体的な状況を明らかにする 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができるかについて、全体的な状況を明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（学外試験により測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） 同一の学位プログラムに属する学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況その他の全体的な状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる学外試験（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき学外試験）の特定 大学として結果を把握すべき学外試験を受験した学生からの報告による結果の収集

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
資格取得や受賞、表彰歴等の状況	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該資格の取得のために求められる資質・能力を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする ・当該資格の取得により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力の一部を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする <p><受賞、表彰歴等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該受賞、表彰等のために求められる資質・能力を高い水準で身に付けることができていることを明らかにする ・当該受賞、表彰等により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格の取得により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（資格取得により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生における資格取得者の人数 <p><受賞、表彰歴等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞、表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（受賞、表彰等により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生における受賞者・表彰者等の人数や具体的な例 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得により証明することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特定 ・上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <p><受賞、表彰歴等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の賞や表彰制度等の受賞や表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる賞や表彰制度等の特定 ・上記の賞や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集
卒業生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・進学先の大学院や就職先の企業などにおける卒業生に対する評価を通じて、学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力に照らした、卒業生に対する雇用主や進学先の指導教員からの評価やその代表例、その他の全体的な状況（進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）や卒業生からの評価と併せて分析を行い、公表することが有益） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の雇用主や進学先の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集
卒業生からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラムにおける学修や教育が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったかや、学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのように役立っているかについて、全体的な状況を、進学・就職から一定期間経過した卒業生からの評価により明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得にあたって学位プログラムが果たした役割についての、卒業生からの評価 ・進学・就職等の進路毎に、どのような資質・能力が役立っているかについての、卒業生からの評価（進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）や卒業生に対する評価と併せて分析を行い、公表することが有益） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

(2) 学修成果・教育成果を保証する条件に関する情報の例

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法	
①大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの	入学者選抜の状況	<ul style="list-style-type: none"> 各学位プログラムにおける個別学力検査の実施教科・科目、入試方法、その他入学者選抜に関する基本的な事項 合否判定の方法や基準 試験問題及びその解答 入試方法の区分に応じた受験者数、合格者数及び入学者数等 (各年度における「大学入学者選抜実施要項³」に基づく公表を実施することが想定される。) 	<ul style="list-style-type: none"> 入試情報の収集 	
	教員一人あたりの学生数	<ul style="list-style-type: none"> 大学全体としての教員と在籍する学生の人数比 学位プログラム毎の、専任教員と在籍する学生の人数比。 (公表の際は、単に人数比を公表するのではなく、クラスサイズや専任教員以外の教員・TA(ティーチング・アシスタント)・RA(リサーチ・アシスタント)等の活用状況などを踏まえた分析を付することが望ましい。) 関連する法令等：規則第172条の2第1項第3号 関連する調査等：「学校基本調査」 	<ul style="list-style-type: none"> 人事記録等(学校基本調査を活用することも考えられる) 	
	学事暦の柔軟化の状況	<ul style="list-style-type: none"> 入学・卒業時期の選択肢や自由度を明らかにすることで、密度の濃い主体的な学修が可能とする環境や、留学等との接続が容易な環境であることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての学事暦の状況(具体的な授業期間など)(学位プログラムにより異なる場合は学位プログラム毎の状況) (各授業科目における到達目標の達成状況と併せて分析を行い、公表することが有益) 	<ul style="list-style-type: none"> 学事暦に関する学内規定の確認
	履修単位の登録上限設定の状況	<ul style="list-style-type: none"> 履修単位の登録上限に関する制限やその例外を明らかにすることで、大学が、密度の濃い主体的な学修を可能としつつ、意欲・能力のある学生には更なる学修を可能とする環境を提供していることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 履修単位の登録上限制度の有無 制度の具体的な内容(上限単位数など) 例外の具体的な要件(成績要件と追加登録が可能な単位数など) (各授業科目における到達目標の達成状況や学修時間と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：基準第27条の2 	<ul style="list-style-type: none"> 学内規定の確認
	授業の方法や内容・授業計画(シラバスの内容)	<ul style="list-style-type: none"> 学生と教員との契約書ともいえるシラバスについて、適切な到達目標や講義方法、講義計画、成績評価基準を定めると共に、学生の主体的な学びを助ける事前事後学修課題を提示することで、大学が、個々の授業科目を「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて適切に設計していることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としてのシラバス作成に関する方針(どのような項目をどのような観点から記載しているかを説明するもの) 個々の授業科目のシラバス(特に必修科目や選択科目については、可能な範囲で学位プログラム毎に編集されることが望ましい) (カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況やナンバリングの実施状況との関係も併せて公表することが有益) 関連する法令等：規則第172条の2第1項第5号、基準第25条の2第1項 	<ul style="list-style-type: none"> 学内におけるシラバス作成に関する方針の確認 電子シラバスへの登録等を通じたシラバスの収集
早期卒業や大学院への飛び入学の状況	<ul style="list-style-type: none"> 意欲や能力を備えた学生の多様な学修ニーズに対応できる選択肢が複数存在することを明らかにすると共に、当該選択肢の活用状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 早期卒業及び大学院への飛び入学に関する要件 学位プログラム毎の早期卒業者・大学院への飛び入学者の人数及び割合 	<ul style="list-style-type: none"> 早期卒業及び大学院への飛び入学に関する学内規定の確認 教務履歴の収集 	

³ 「令和2年度大学入学者選抜実施要項について(通知)」 (https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afielldfile/2019/06/05/1282953_001_1_1.pdf)

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
FD・SDの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業認定・学位授与の方針」に基づき教育の成果を最大化するため、当該方針に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義し、これを踏まえて最適なFD・SDを実施していることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像 大学として実施しているFD・SDの内容（対象別の内容や頻度、参加率（どのような立場の者がどのような内容のFD・SDに参加したかが分かることが望ましい）など） 他大学や教育関係共同利用拠点との連携等によりFD・SDを実施している場合は、連携して実施するFD・SDの概要（連携先の名称や、FD・SDの内容、頻度など） FD・SDを担当する組織・部局を有する場合は、その概要（スタッフの人数や大学組織上の位置付けなど） <p>関連する法令等：基準第25条の3、第42条の3 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について⁴」</p>	<ul style="list-style-type: none"> FD・SDの内容の収集
② 教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報 GPAの活用状況	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎に、所属する学生それぞれのGPAの平均値等を明らかにすることで、学生が各授業科目に定められた到達目標に全体的にどの程度到達しているかという学位プログラムの全体的な教育の達成状況を明らかにする GPAを、留年や退学の勧告等の基準や、履修指導・学修支援のための基礎情報として用いていることを明らかにすることで、「卒業認定・学位授与の方針」に基づき、質の高い教育を提供していることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学全体としてのGPAの算定方法（評語とGPとの対応関係や、不可となった科目や履修登録を取り消した科目の扱い、など） 学位プログラム毎のGPAの平均値及び分布（入学年度や学期などの観点から分類した数値も併せて公表することが望ましい） GPAの活用状況（以下のような活動等の判断基準としてGPAを用いているか否か） <ul style="list-style-type: none"> 学生に対する個別の学修指導 奨学金や授業料免除対象者の選定 履修上限単位制限の解除 進級・卒業判定、退学勧告 大学院入試の選抜 早期卒業や大学院への早期入学 <p>（各授業科目における到達目標の達成状況と併せて分析を行い、公表することが有益） 関連する法令等：規則第172条の2第1項第6号 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> GPAの算定方法に関する学内規定の確認 教務履歴などより収集
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえたカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを明らかにすることで、各学位プログラムが、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成していることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎のカリキュラムマップ・カリキュラムツリー（※） <p>（※）カリキュラムマップやカリキュラムツリー以外の方法で、学位プログラムのカリキュラムにおいて、「卒業認定・学位授与の方針」との関係で過不足なく科目が配置されていることを検証している場合は、当該方法。 （授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）やナンバリングの実施状況との関係も併せて公表することが有益） 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップ・カリキュラムツリー等の収集

⁴ 「大学における教育内容等の改革状況について（平成28年度）」 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1417336.htm

情報		①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
	ナンバリングの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 大学が、ナンバリングの実施を通じて、学位プログラムを構成する個々の授業科目の教育課程上の水準や学位プログラム全体の体系性が整理された適切なカリキュラムを編成するための取組を行わっていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としてのナンバリングに関する方針（どのような分類基準に基づいてナンバリングを実施しているかを説明するもの） 学位プログラム毎のナンバリングを行った授業科目一覧（授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）やカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況との関係も併せて公表することが有益） <p>関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学としてのナンバリングに関する方針の確認 ナンバリング済みの授業科目一覧の収集
	教員の業績評価の状況	<ul style="list-style-type: none"> 大学が、研究活動のみならず教育活動における業績を評価する仕組みを整え、教員が積極的に教育活動や教育改善に取り組む意欲を持つことができる環境を整えていることを明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての教員の業績評価に関する方針など <p>関連する法令等：規則第172条の2第1項第3号</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての教員の業績評価に関する方針の確認
	教学IRの整備状況	<ul style="list-style-type: none"> 教学マネジメントの基礎となる情報を収集する上で基盤となる教学IRについて適切な制度整備や人材育成を行っていることを明らかにすることで、教学マネジメントを行う体制を整えていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学として実施している教学IRの主な内容（分析事例の紹介や、教学IRをきっかけとする教学改善の事例の紹介など） 教学IRを担当する組織・部局の概要（スタッフの人数や大学組織上の位置付けなど） 教学IRに関する学内規則 <p>関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教学IRの主な内容の収集



金沢大学 教学マネジメント FACTBOOK 2024

発行 : 金沢大学 教学マネジメントセンター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
2025年3月 発行
